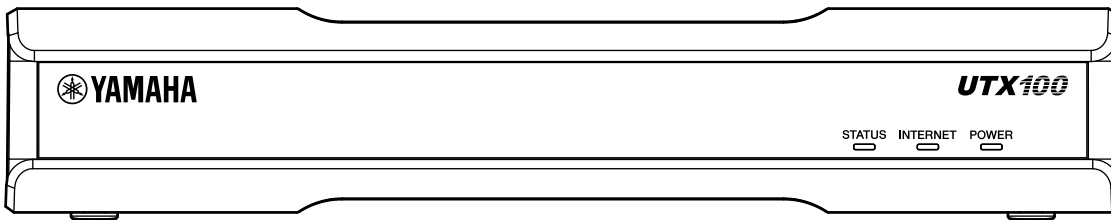
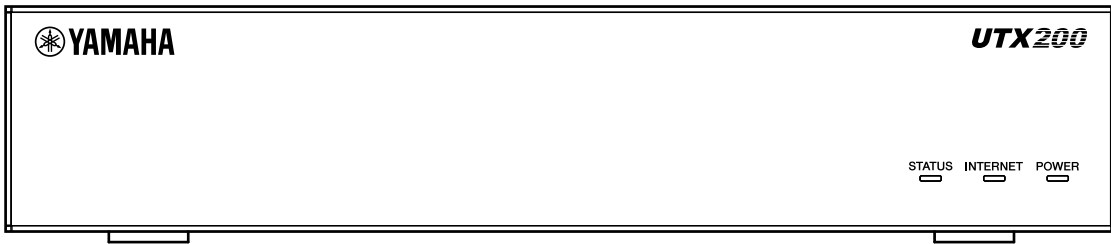


UTMアプリケーション

UTX200

UTX100

ユーザーガイド



目次

1. はじめに	2
1.1. 本製品の特長	2
1.2. 付属品	2
1.3. 別売品	2
1.4. マニュアルのご案内	2
1.5. 本ガイドの表記について	3
2. 各部の名称と機能	4
2.1. 前面	4
2.2. 背面	6
2.3. 側面	8
2.4. 底面	9
2.5. ポートのインジケータ	10
3. 設置	11
3.1. 水平置きで設置する	11
3.2. 壁面に設置する	11
4. 接続	14
4.1. ネットワーク機器やコンピューターを接続する	14
4.2. SFPモジュールを取り付ける・取り外す【UTX200】	15
4.3. 電源アダプターを接続する	18
5. 初期設定	20
5.1. ブリッジモードで利用する場合	21
5.2. ルーターモードで利用する場合	44
5.3. ライセンスを有効化する	68
6. VPN設定	70
6.1. サイト間VPNを構築する	70
6.2. リモートアクセスVPNを構築する	84
7. 運用管理	90
7.1. セキュリティー機能を利用する	90
7.2. セキュリティーレポートを確認する	91
7.3. ヤマハルーターのダッシュボードで管理する	93
7.4. ヤマハルーターのLANマップで管理する	93
7.5. 管理者アクセスの設定を変更する	94
7.6. デバイスアクセスの設定を変更する	99
7.7. ライセンスの有効性を確認する	102
7.8. ファームウェアをアップグレードする	104
7.9. 本製品の設定を工場出荷時の状態に戻す	110

1. はじめに

1.1. 本製品の特長

『UTX200』『UTX100』は、小規模および中規模企業（SMB）に必要とされるセキュリティー機能を、1台で提供することができるUTMアプライアンスです。既にご導入いただいておりますヤマハルーターの配下に本製品を追加していただくことで、企業ネットワークのセキュリティーレベルを大きく向上できます。また、機器導入に際しては、専用サポート窓口「UTXサポートサービス」により、お客様環境のトラブル解決を強力にサポートします。

1.2. 付属品

以下の付属品が同梱されているか、ご確認ください。

- ・ はじめにお読みください：1枚
- ・ 初期設定ガイド：1枚
- ・ Software license agreement：1冊
- ・ AC100V用電源コード：1本
取り付け方は「[電源アダプターを接続する](#)」をご覧ください。
- ・ 電源アダプター：1個
- ・ 壁取り付け用位置決めシート：1枚
本製品を壁面に取り付けの場合に使用します。取り付け方は「[壁面に設置する](#)」をご覧ください。
- ・ LANケーブル：1本
- ・ USBケーブル：1本
(保守用のため、通常は使用しません)

1.3. 別売品

- ・ SFPモジュール YSFP-G-SXA、YSFP-G-LXA
適合規格：1000BASE-SX/1000BASE-LX
光ファイバーケーブルを接続する場合に必要です。
DMZ用SFPポートに取り付けます。取り付け方は「[SFPモジュールを取り付ける・取り外す【UTX200】](#)」をご覧ください。

別売品の詳細については、以下のWebサイトをご覧ください。

ヤマハネットワーク製品オプション：<https://network.yamaha.com/products/options/>

1.4. マニュアルのご案内

本製品の利用シーンに合わせた以下のマニュアルを用意しています。目的に合わせて適切なマニュアルをお読みください。

- ・ はじめにお読みください（紙）
本製品をお使いになるうえでの注意事項が記載されています。ご使用前に必ずお読みください。
- ・ 初期設定ガイド（紙）
本製品をブリッジモードでお使いになる場合の、接続方法と設定方法が記載されています。
- ・ ユーザーガイド（本ガイド）
本製品の設置方法、接続方法、設定方法が記載されています。

- 技術資料（Webサイト）
本製品の機能についての詳しい情報が記載されています。以下のWeb サイトで公開されています。
ヤマハネットワーク機器の技術資料：<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/>
- 設定例（Webサイト）
本製品を使用した高度な活用方法や、詳しい解説が記載されています。以下のWebサイトで公開されています。
ヤマハネットワーク製品 設定例：<https://network.yamaha.com/setting/>

1.5. 本ガイドの表記について

- 本ガイドの記載内容の一部または全部を無断で転載することを禁じます。
- 本ガイドは、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、ヤマハWebサイトからダウンロードできます。
ヤマハネットワーク機器マニュアル：<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/manual.html>
- 本ガイドに記載されているイラストや画面は、すべて説明のためのものです。
- 本ガイドではそれぞれの社名・製品について、以下のように略称で記載しています。
 - UTMアプライアンス UTX200、UTX100：本製品
 - 10BASE-T、100BASE-TX、1000BASE-Tケーブル：LANケーブル
- 本ガイドに記載されている会社名、製品名は各社の登録商標あるいは商標です。
 - Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- 本ガイドに記載されている記号とその内容は以下のとおりです。



警告：「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意：「傷害を負う可能性が想定される」内容です。



注意：製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、お守りいただく内容です。



重要：製品を正しく操作、運用するために、必ず知っておいていただきたい内容です。



お知らせ：操作や運用に関連した情報です。参考にお読みください。

- 本ガイドは、一部のモデルだけに関する記載を以下のように表します。

表記	内容
【UTX200】	UTX200だけに関する記載を表します。
【UTX100】	UTX100だけに関する記載を表します。



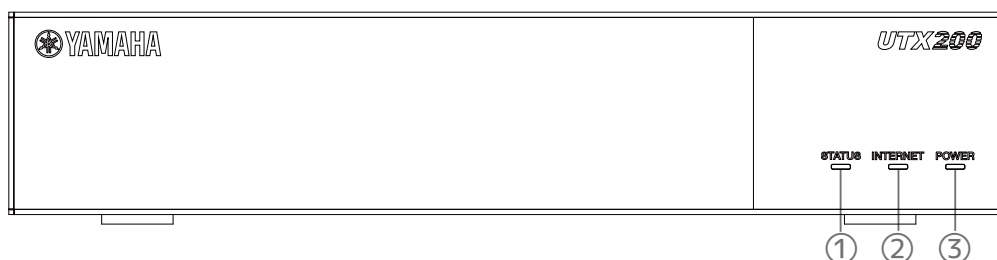
お知らせ

- 全モデルに共通する記載には、モデル名は付いていません。

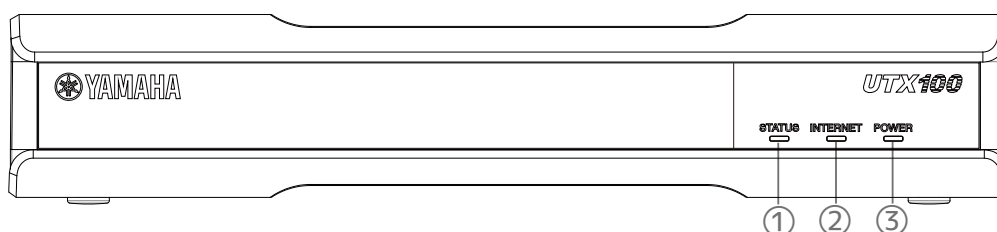
2. 各部の名称と機能

2.1. 前面

【UTX200】



【UTX100】



① STATUSインジケータ

クラウドマネジメントサービスとの接続状態を示します。

STATUSインジケータ	状態
消灯	クラウドマネジメントサービスが無効です。
点灯（青色）	クラウドマネジメントサービスと接続しています。
点灯（赤色）	クラウドマネジメントサービスと接続していません。

② INTERNETインジケータ

インターネットとの接続状態を示します。

INTERNETインジケータ	状態
消灯	インターネットに接続していません。
点灯（青色）	インターネットに接続しています。
点滅（青色）	インターネットとの接続処理中です。
点滅（赤色）	インターネットとの接続で、エラーが発生しています。

③ POWERインジケータ

本製品の電源の状態を示します。

POWERインジケータ	状態
消灯	電源が切れています。
点灯（青色）	正常に動作しています。
点滅（青色）	起動処理中、またはファームウェアの更新処理中です。
点灯（赤色）	エラーが発生しています。

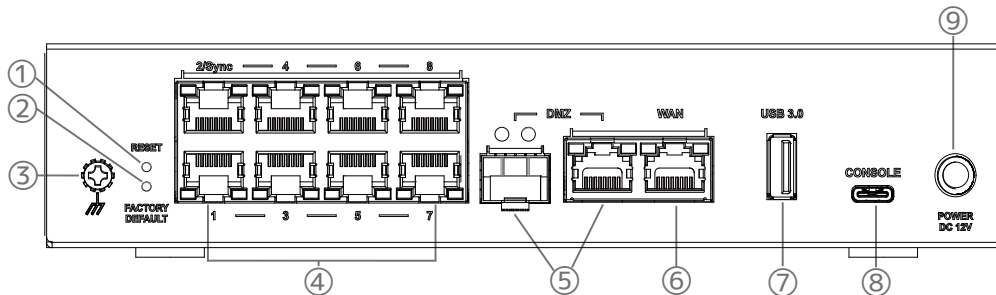


お知らせ

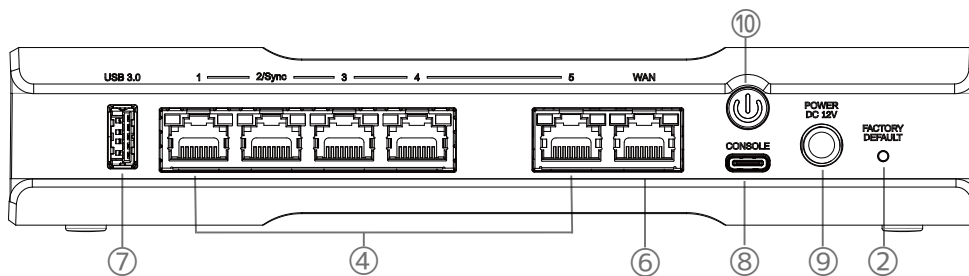
- ・電源を入れた直後は、赤点灯した後、青点滅状態に変わります。

2.2. 背面

【UTX200】



【UTX100】



① RESET (リセット) ボタン 【UTX200】

先の細いピンのようなもので押すと、本製品が再起動します。設定は変更されません。

② FACTORY DEFAULT (初期化の設定) ボタン

先の細いピンのようなもので3秒以上押すと、本製品のファームウェアと設定が工場出荷時の状態に戻ります。詳しくは、「[本製品の設定を工場出荷時の状態に戻す](#)」をご覧ください。

③ アース端子 【UTX200】

アースコードを接続します。

④ LANポート

10BASE-T、100BASE-TX、1000BASE-Tのポートです。

各ポートには、リンク状態と接続速度を示すインジケータがついています。詳しくは、「[ポートのインジケータ](#)」をご覧ください。

⑤ DMZ用SFP/RJ-45コンボポート 【UTX200】

SFPポートまたはRJ-45ポートのどちらかを使用できます。両方に挿入して起動すると、SFPポートが優先されます。

- SFPポート

1000BASE-SX、1000BASE-LXのポートです。

別売のSFPモジュール (YSFP-G-SXA、YSFP-G-LXA) を取り付けます。SFPモジュールの取り付け方は、「[SFPモジュールを取り付ける・取り外す【UTX200】](#)」をご覧ください。

上部のLEDは、接続 (ショートとロングレンジ) と速度を示しています。詳しくは、「[ポートのインジケータ](#)」をご覧ください。

- RJ-45ポート

10BASE-T、100BASE-TX、1000BASE-Tのポートです。

リンク状態と接続速度を示すインジケータがついています。詳しくは、「[ポートのインジケータ](#)」

[ター](#)」をご覧ください。

⑥ WANポート

10BASE-T、100BASE-TX、1000BASE-Tのポートです。
リンク状態と接続速度を示すインジケータがついています。詳しくは、「[ポートのインジケータ](#)」
をご覧ください。

⑦ USBポート

保守用のため、通常は使用しません。

⑧ CONSOLEポート

保守用のため、通常は使用しません。

⑨ 電源コネクタ（DC-IN 12V）

付属の電源アダプター（品番：FSP040-DHAN3）を接続します。取り付け方は、「[電源アダプターを接続する](#)」
をご覧ください。

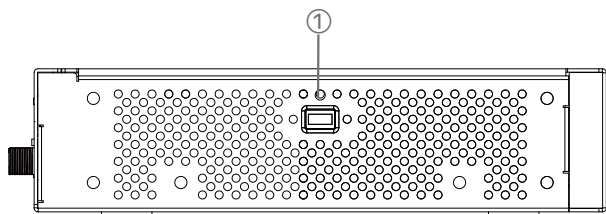
⑩ 電源ボタン【UTX100】

本体の電源のオン/オフを切り替えます。

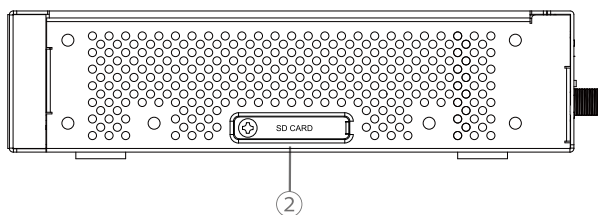
2.3. 側面

【UTX200】

左側面

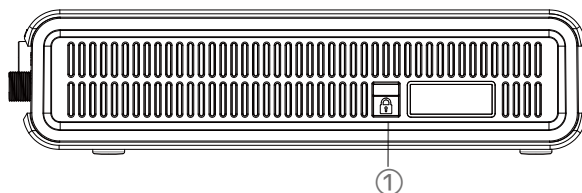


右側面



【UTX100】

左側面



① セキュリティー slots

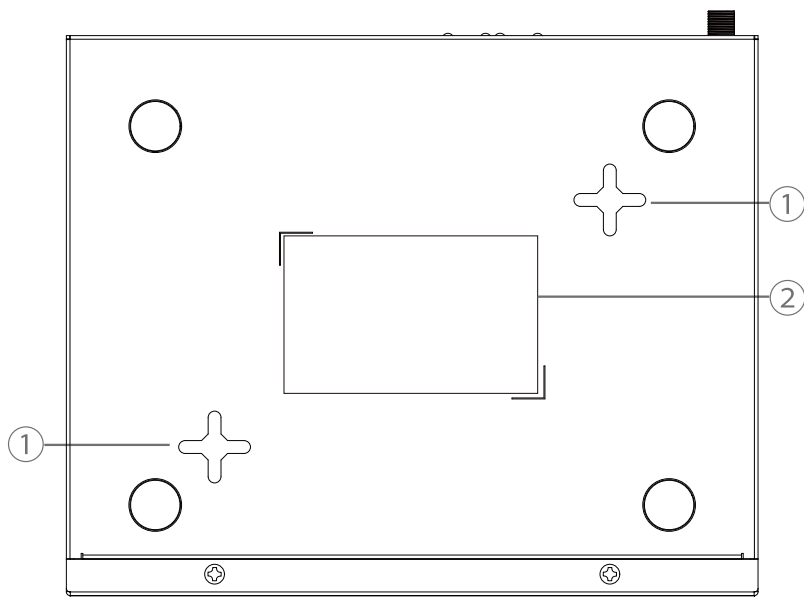
市販のセキュリティーワイヤーを取り付けます。

② microSDスロット 【UTX200】

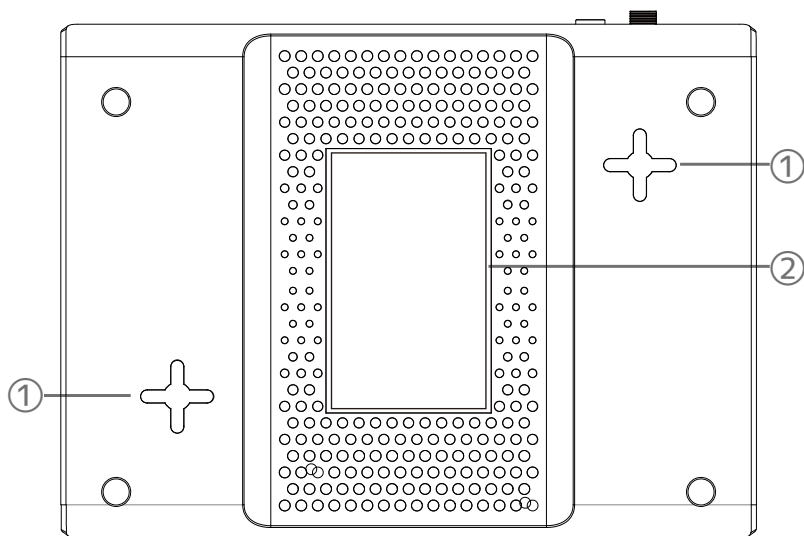
保守用のため、通常は使用しません。

2.4. 底面

【UTX200】



【UTX100】



① 壁掛け穴

本製品を壁面に取り付ける場合に使用します。取り付け方は「[壁面に設置する](#)」をご覧ください。

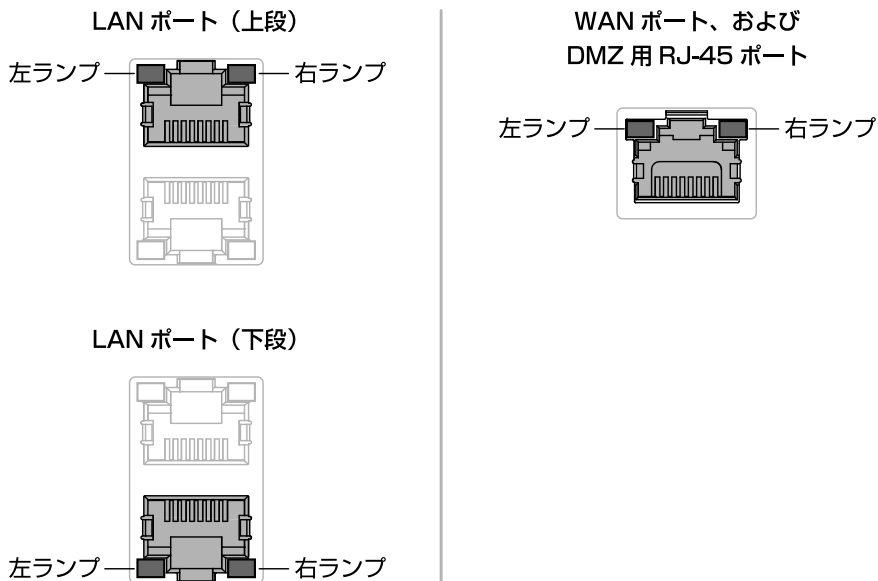
② 銘板ラベル

製造番号、MACアドレスなどを記載しています。

2.5. ポートのインジケータ

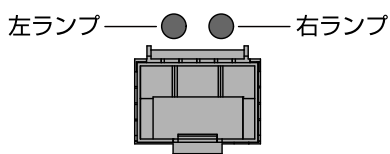
LANポート、WANポート、およびUTX200のDMZ用SFP/RJ-45コンボポートには、各ポートのリンク状態と接続速度を示すインジケータがついています。

LANポート、WANポート、DMZ用RJ-45ポート



左側（緑色）	右側（橙色）	リンクの状態
消灯	消灯	リンクを喪失しています（使用不可）。
点灯	点灯	1000BASE-Tで、リンクを確立しています（使用可能）。
点滅	点灯	1000BASE-Tで、データが流れています。
点灯	消灯	100BASE-TX、または10BASE-Tで、リンクを確立しています（使用可能）。
点滅	消灯	100BASE-TX、または10BASE-Tで、データが流れています。

DMZ用SFPポート



左側（緑色）	右側（橙色）	リンクの状態
消灯	消灯	リンクを喪失しています（使用不可）。
点灯	点灯	1000BASE-SX/LXで、リンクを確立しています（使用可能）。
点滅	点灯	1000BASE-SX/LXで、データが流れています。

3. 設置

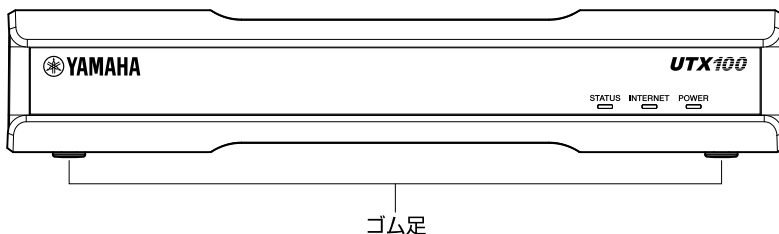
3.1. 水平置きで設置する

デスクの上などの水平な場所に設置します。



お知らせ

- 本体のすべり防止と設置面の保護のため、ゴム足が本体に付いています。

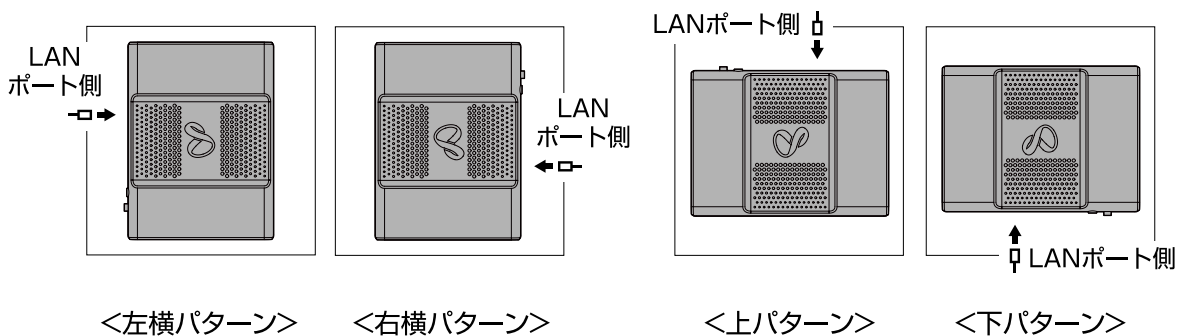


3.2. 壁面に設置する

ネジと付属の壁取り付け用位置決めシートを使用して、壁面に設置します。

■取り付けパターン

前面、背面、側面のどの面を上にしても設置できますが、斜めには設置しないでください（下図参照）。



注意



- 2m以上の高さに取り付けない。
落下によるけがや機器破損の原因になります。
- 底面を上にして取り付けない。
落下によるけがや機器破損の原因になります。

■ご用意いただくもの

- 壁用取り付けネジ（2本）

本製品には、壁に取り付けるためのネジは付属していません。市販のネジをお買い求めください。取り付けの壁の材質によって、適合するネジの種類と長さが異なります。必ず取り付けの壁の材質、厚みをご確認いただき、設置場所に合ったネジをご使用ください。

■取り付け手順

1. 付属の壁取り付け用位置決めシートを壁に仮付けし、ネジ位置の印をつけます。



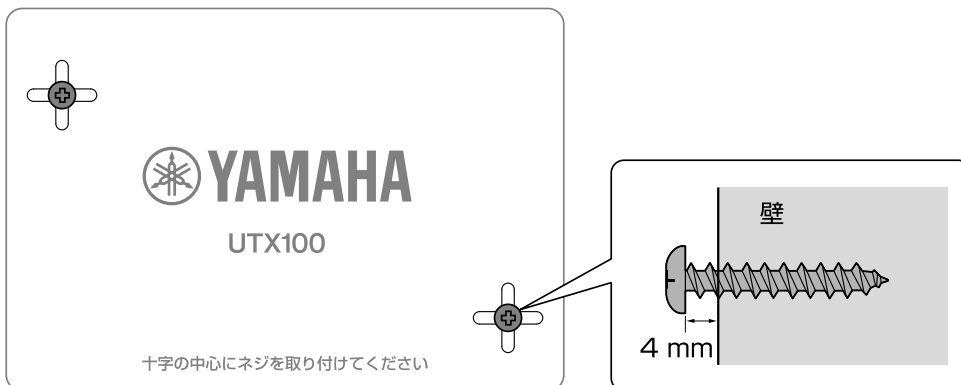
お知らせ

- 壁取り付け用位置決めシートは、裏面がシールになっています。
(壁に貼り付けて作業することもできます)

壁取り付け用位置決めシート



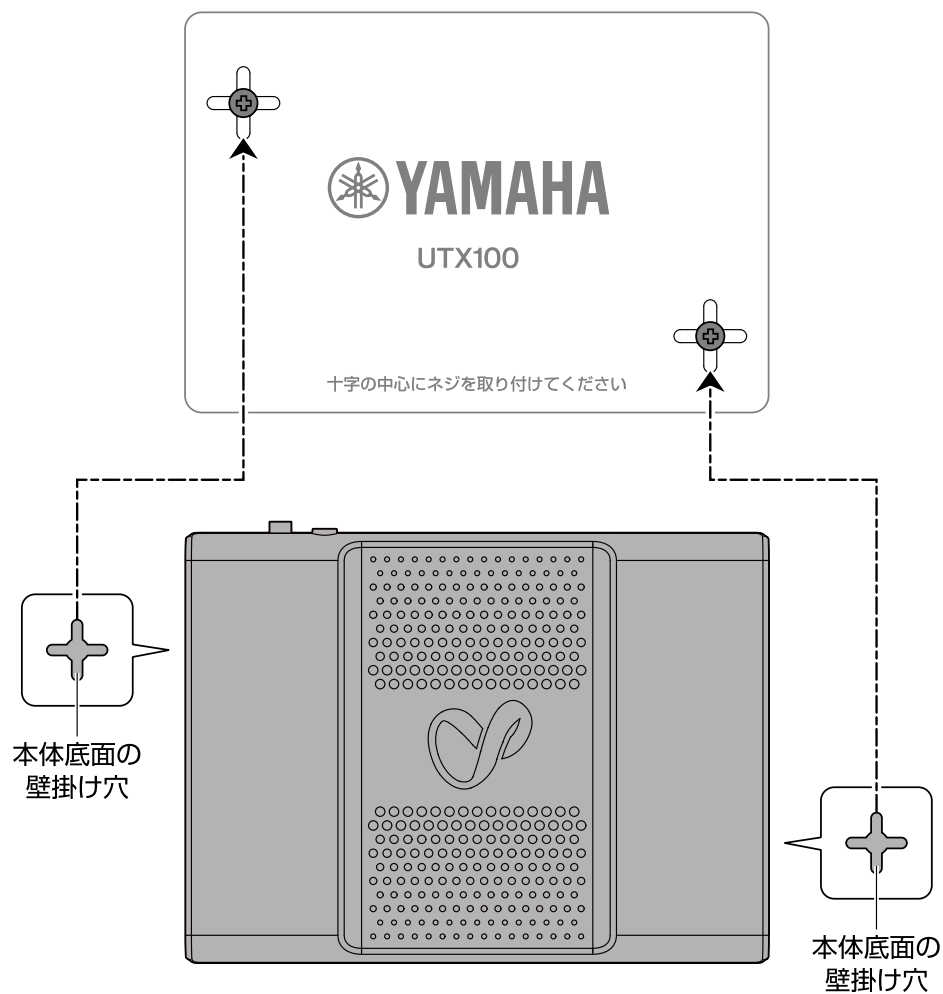
2. 壁取り付け用位置決めシートを壁から取り外し、手順1.でつけた印の位置に、市販のネジを取り付けます。
このとき、壁とネジのくび下に約4mmの引っ掛けしろを残してください(下図)。



注意

- 必ず壁の材質に適合したネジを使用する。
落下によるけがや機器破損の原因になります。

3. 壁に取り付けたネジ2本に、本体裏面にある壁掛け穴2つを引っ掛けます。



警告



- 取り付け、取り外しの際は、必ず本製品の電源プラグをコンセントから抜く。
感電や故障の原因になります。

注意



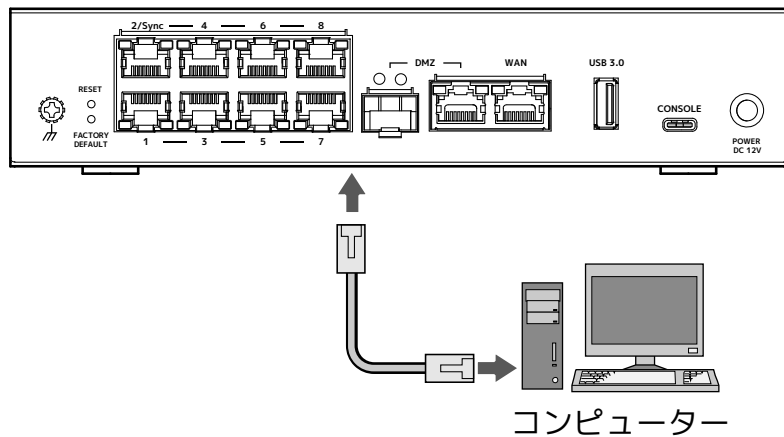
- 本製品を落下させない。
落下によるけがや機器破損の原因になります。

4. 本体を下にずらすようにして、位置を固定します。

4. 接続

4.1. ネットワーク機器やコンピューターを接続する

ネットワーク機器やコンピューターのLANポートと、本製品のLANポート（またはWANポート、DMZ用RJ-45ポート）を、LANケーブルで接続します。



光ファイバーケーブルで接続するときは、SFPポートにSFPモジュールを取り付けます。取り付け方は「[SFPモジュールを取り付ける・取り外す【UTX200】](#)」をご覧ください。

お知らせ



- 各ポートのインジケータで、ネットワーク機器やコンピューターとの接続状態を確認できます。詳しくは「[ポートのインジケータ](#)」をご覧ください。

4.2. SFPモジュールを取り付ける・取り外す【UTX200】

UTX200のDMZ用SFPポートには、SFPモジュール（YSFP-G-SXA、YSFP-G-LXA）を取り付けることができます。

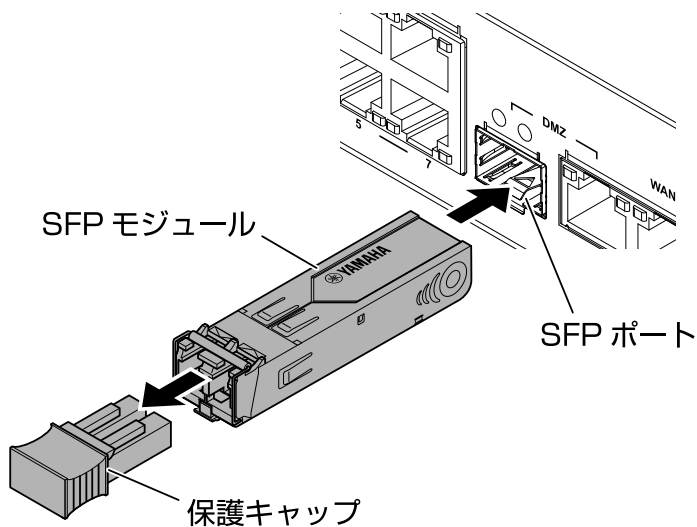


お知らせ

- ・ 取り付け、取り外し方法や注意事項など、詳細については各モジュール付属の「YSFP-G-SXA YSFP-G-LXA 取扱説明書」をご覧ください。

■取り付け手順

1. 本製品のDMZ用SFPポートに、SFPモジュールを差し込みます。



お知らせ

- ・ 本製品はホットスワップに対応しているため、電源を切らずにSFPモジュールを装着できます。

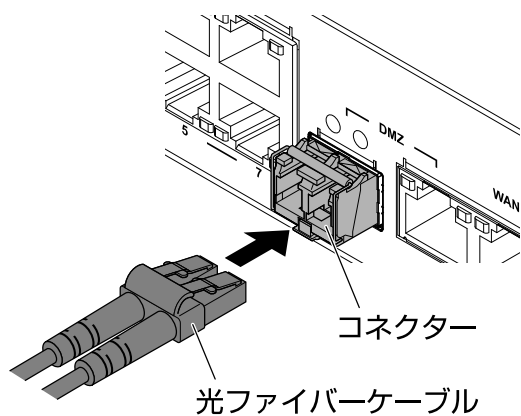
2. SFPモジュールから保護キャップを外します。

注意



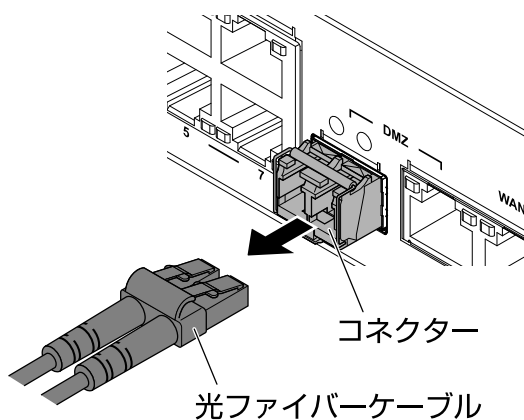
- ・ SFPモジュールを装着したときは光源をのぞきこまない。
弊社別売のSFPモジュールはクラス1レーザー機器です。目に見えないレーザー光線が放射されているおそれがあります。レーザー光線が目に入ると、視覚に障害を及ぼすおそれがあります。

3. 各モジュールに対応した光ファイバーケーブルを、コネクタに接続します。

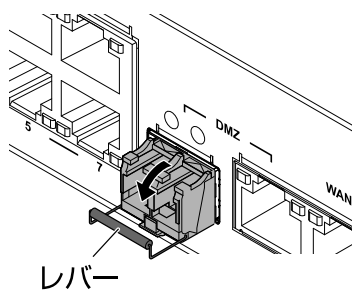


■取り外し手順

1. 光ファイバーケーブルを取り外します。



2. SFPモジュールのレバーを下げます。

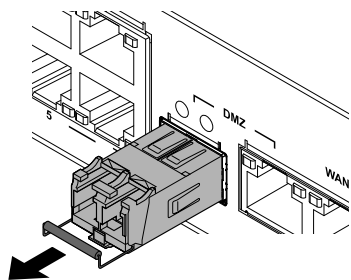


注意



- SFPモジュールを装着したときは光源をのぞきこまない。
弊社別売のSFPモジュールはクラス1レーザー機器です。目に見えないレーザー光線が放射されているおそれがあります。レーザー光線が目に入ると、視覚に障害を及ぼすおそれがあります。

3. レバーを持ってSFPモジュールを引き抜きます。



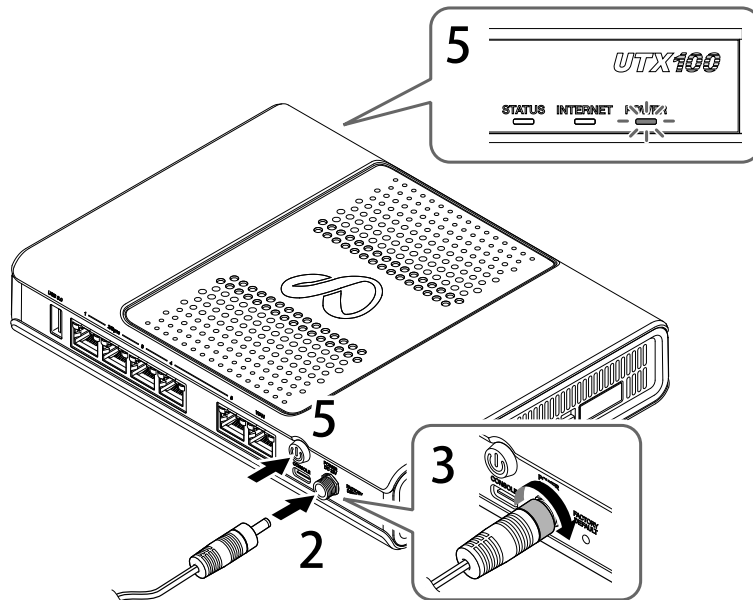
お知らせ

- 本製品はホットスワップに対応しているため、電源を切らずにSFPモジュールを取り外すことができます。

4.3. 電源アダプターを接続する

以下の手順で、本製品を電源に接続します。

1. 付属の電源コードと電源アダプターを接続します。
2. 電源アダプターのケーブルを、電源コネクタに差し込みます。



3. 抜け防止ナットを締め付けて、接続を固定します（上図）。
4. 電源プラグをコンセントに接続します。
5. 本製品の電源を入れます。

【UTX100】電源ボタンを押します（上図）。

【UTX200】手順4. の時点で、自動的に電源が入ります（電源ボタンはありません）。

お知らせ



- 電源を入れた直後は、POWERインジケーターが赤点灯した後、青点滅状態になります。
- 起動が完了するまで、約2～3分かかります。
起動が完了すると、POWERインジケーターが青色の点滅から点灯に変わります。

6. ポートのインジケーターを確認します。
ネットワーク機器やコンピューターを接続したポートの左インジケーターが、緑点灯または緑点滅していれば正常です。



お知らせ

。ポートの左インジケータが緑点灯または緑点滅しない場合は、次の2点を確認してください。

- ポートにケーブルが正しく接続されているか
- 接続したネットワーク機器やコンピューターの電源が入っているか

接続状態の詳細は、「[ポートのインジケータ](#)」をご覧ください。

5. 初期設定

本章では、本製品の初期設定の手順を説明します。

重要



- ・ 本製品を利用するには、ライセンスが必要です。
初期設定後に「[ライセンスを有効化する](#)」の手順を行い、正式ライセンスを有効にしてください。

本製品の利用形態には、「ブリッジモード」と「ルーターモード」の2つがあります。利用するモードによって、初期設定の手順が異なります。本ガイドでは、それぞれのモードに対する初期設定の手順を説明します。

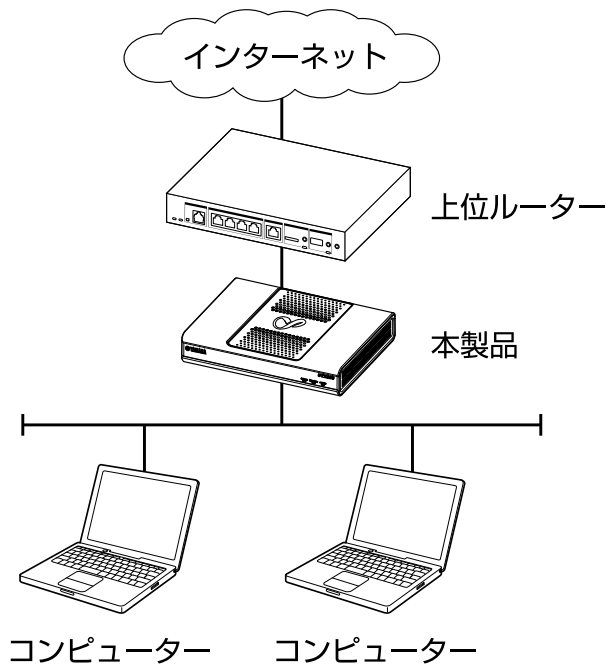
■利用形態

ブリッジモード	ルーターモード
<p>インターネットに接続したルーターの配下に本製品を設置し、透過型ファイアウォールとして使用します。上位ルーターがヤマハルーターの場合は、「ダッシュボード」や「LANマップ」を利用して、本製品を管理できます。</p> <p>※初期設定の手順はこちら</p>	<p>本製品を直接インターネットに接続し、ルーターとして使用します。サイト間VPNやリモートアクセスVPNを利用して、安全なネットワークを構築できます。</p> <p>※初期設定の手順はこちら</p>

5.1. ブリッジモードで利用する場合

本製品をブリッジモードで利用する場合の、初期設定の手順を説明します。
本製品の設定変更は、本製品に接続したコンピューターのWebブラウザで、Web GUIを開いて行います。

■ブリッジモードでの利用イメージ



■ご用意いただくもの

- コンピューター
本製品の設定を行うコンピューターをご用意ください。

お知らせ



- 本製品の設定変更には、Webブラウザが必要です。推奨Webブラウザについては、以下のURLをご覧ください。
ヤマハネットワーク製品Web GUIのWebブラウザ対応状況：
<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/FAQ/gui/browser.html>

- LANケーブル
付属のLANケーブルまたは、コンピューターまでの距離に合わせて、別途LANケーブルをご用意ください。



お知らせ

- 1000BASE-Tでご使用になる場合は、エンハンスドカテゴリ5 (CAT5e) 以上のLANケーブルをご用意ください。

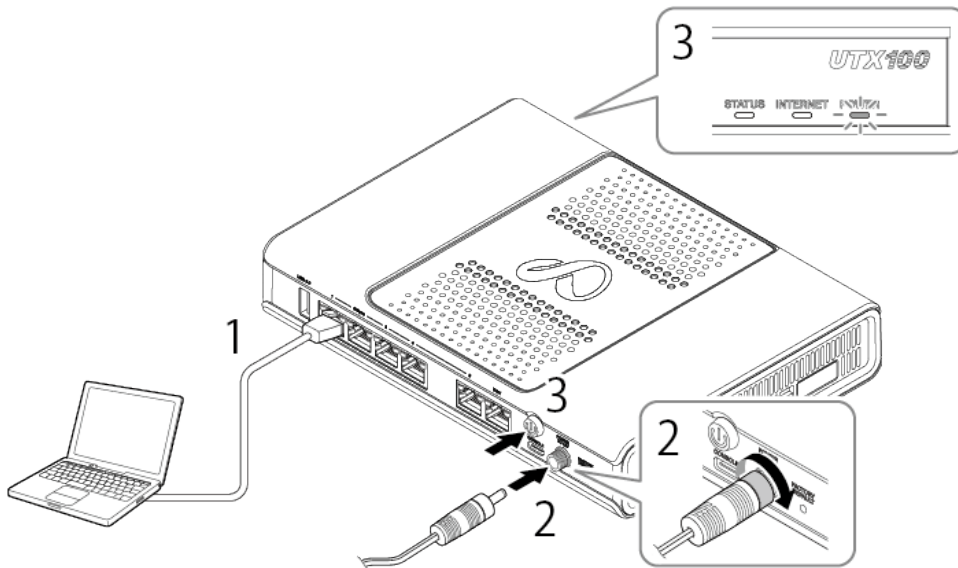
- ネットワークの情報
本製品を設置するネットワークの、以下の情報をご用意ください。
 - 上位ルーターのIPアドレス
 - 設置環境のサブネットマスク

■手順の流れ

1. 本製品とコンピューターを接続する
2. コンピューターのネットワーク設定をする
3. 本製品の初期設定ウィザードを開く
4. 初期設定をする
5. 本製品のWeb GUIにログインする
6. 本製品をネットワークに接続する
7. ライセンスを有効化する

5.1.1. 本製品とコンピューターを接続する

初期設定が完了するまで、本製品のWANポートにはケーブルを接続せずに操作を行います。



1. 本製品のLANポートにコンピューターを接続します。
2. 本製品に電源アダプターを接続します。
付属の電源アダプターを電源コネクタに接続し、抜け防止ナットを締め付けて固定してください。



お知らせ

- 。詳しくは、「[電源アダプターを接続する](#)」をご覧ください。

3. 本製品の電源を入れます。

【UTX100】電源ボタンを押します。

【UTX200】手順2. の時点で、自動的に電源が入ります。

起動が完了すると、POWERインジケーターが青色の点滅から点灯に変わります。



お知らせ

- 。起動が完了するまで、約2～3分かかります。

5.1.2. コンピューターのネットワーク設定をする

本製品のIPアドレスは、工場出荷時の状態では192.168.1.1/24に設定されています。
本製品のWeb GUIを開くために、設定用のコンピューターのIPアドレスを、192.168.1.0/24のセグメントとなるように変更します。

なお、コンピューターのIPアドレスの設定方法は、OSにより異なります。本ガイドでは、Windows 10を例に説明します。

注意



- ・ コンピューターには管理者権限をもつユーザー名でログオンしてください。管理者権限については、OSのヘルプなどをご覧ください。

重要



- ・ 本製品は、工場出荷時の状態では、DHCPサーバーの設定が有効になっています。しかし、本製品をブリッジモードに変更すると、DHCPサーバーの設定が無効になります。必要に応じて、コンピューターのIPアドレスを固定に設定してください。

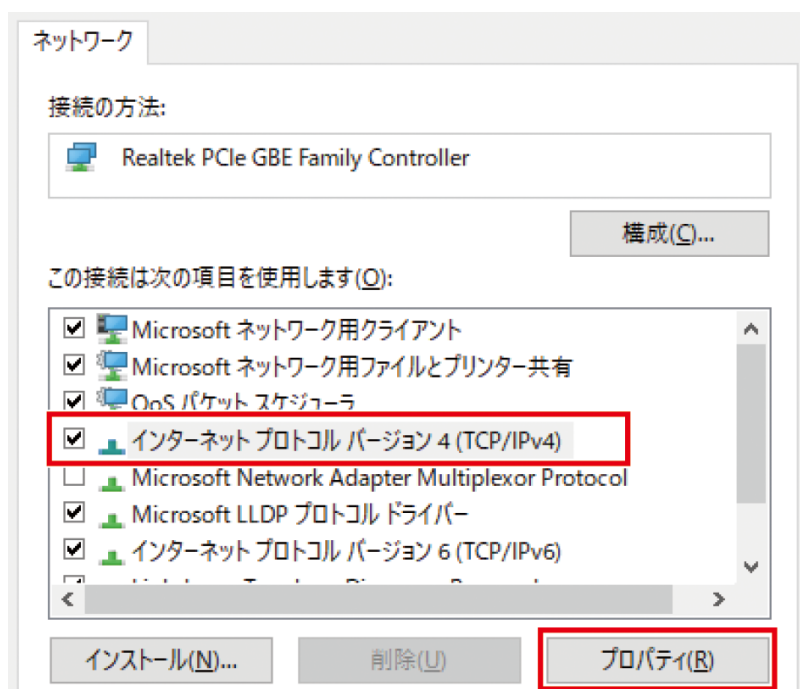
1. スタートメニュー画面から「設定アイコン」 () - 「ネットワークとインターネット」の順にクリックします。
2. 「アダプターのオプションを変更する」をクリックします。



3. 変更するアダプターを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
変更するアダプターのプロパティ画面が表示されます。



4. 「この接続は次の項目を使用します」項目で「インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4)」を選択し、「プロパティ」をクリックします。
「インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4) のプロパティ」画面が表示されます。



5. 「次のIPアドレスを使う」を選択し、以下の設定を入力します。

項目	説明
IPアドレス	本製品と同一セグメントのIPアドレスを設定します。 本製品の設定が工場出荷時の状態の場合は、「192.168.1.2」を入力します。
サブネットマスク	本製品のネットワークのサブネットマスクを設定します。 本製品の設定が工場出荷時の状態の場合は、「255.255.255.0」を入力します。
デフォルトゲートウェイ	本製品のIPアドレスを設定します。 本製品の設定が工場出荷時の状態の場合は、「192.168.1.1」を入力します。

全般

ネットワークでこの機能がサポートされている場合は、IP 設定を自動的に取得することができます。サポートされていない場合は、ネットワーク管理者に適切な IP 設定を問い合わせてください。

IP アドレスを自動的に取得する(O)

次の IP アドレスを使う(S):

IP アドレス(I):

サブネット マスク(U):

デフォルト ゲートウェイ(D):

DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する(B)

次の DNS サーバーのアドレスを使う(E):

優先 DNS サーバー(P):

代替 DNS サーバー(A):

終了時に設定を検証する(L)

6. 「OK」をクリックします。
「インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4) のプロパティ」画面が閉じます。
7. 「閉じる」をクリックします。
変更したアダプターのプロパティ画面が閉じます。

5.1.3. 本製品の初期設定ウィザードを開く

本製品に接続したコンピュータで、Web GUIの初期設定ウィザードを開きます。

重要



- 本製品のWANポートにケーブルを接続した状態で手順を行うと、本ガイドの案内どおりに設定できない可能性があります。
 - 本製品のWANポートにケーブルが接続されていないことを確認してください。
 - LANポートへのケーブル接続は、初期設定ウィザードの設定を終えた後、「[本製品をネットワークに接続する](#)」で行います。
- 初期設定ウィザードは、本製品の設定が工場出荷時の状態のときだけ表示されます。以下の手順を行っても初期設定ウィザードが表示されない場合は、本製品の設定を工場出荷時の状態に戻してください。詳しくは、「[本製品の設定を工場出荷時の状態に戻す](#)」をご覧ください。

お知らせ



- 本製品の設定変更には、Webブラウザが必要です。推奨Webブラウザについては、以下のURLをご覧ください。
ヤマハネットワーク製品Web GUIのWebブラウザ対応状況：
<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/FAQ/gui/browser.html>
- 本ガイドでは、Google Chromeを利用する場合を例に説明します。

1. コンピューターでWebブラウザを起動します。
2. アドレスバーに「https://192.168.1.1:4434/」と半角英数字で入力して、Enterキーを押します。
3. 「詳細設定」をクリックします。



この接続ではプライバシーが保護されません

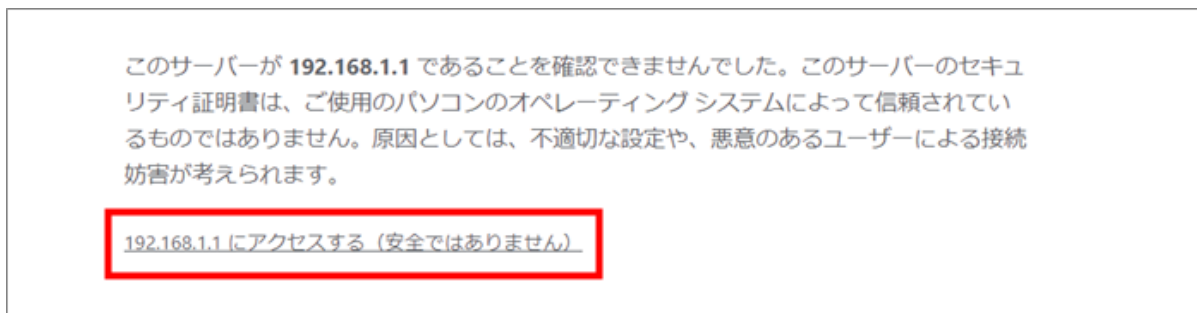
192.168.1.1 では、悪意のあるユーザーによって、パスワード、メッセージ、クレジットカードなどの情報が盗まれる可能性があります。詳細

NET::ERR_CERT_AUTHORITY_INVALID

アクセスしたページのURL、システム情報、およびページのコンテンツの一部を Google に送信して、ウェブ全体のセキュリティ強化にご協力ください。プライバシーポリシー

[詳細設定](#) [セキュリティで保護されたページに戻る](#)

4. 「192.168.1.1にアクセスする（安全ではありません）」をクリックします。



本製品の初期設定ウィザードが表示されます。



お知らせ

- 。 右上のメニューから、初期設定ウィザードの表示言語を切り替えることができます。

5.1.4. 初期設定をする

初期設定ウィザードの案内にしたがって、初期設定を行います。

重要



- 初期設定ウィザードの途中で設定を中止した場合は、それまでの設定内容が保存され、初期設定ウィザードが完了します。
 - 設定を中止した後で、初期設定ウィザードを再開することはできません。
 - 初期設定ウィザードをもう一度操作したい場合は、本製品の設定を工場出荷時の状態に戻してください。詳しくは、「[本製品の設定を工場出荷時の状態に戻す](#)」をご覧ください。

1. 「次へ」をクリックします。



2. 管理ユーザー情報を設定し、「次へ」をクリックします。

項目	説明
管理者名	工場出荷時の状態では、「admin」が入力されています。セキュリティ確保のため、変更することを強く推奨します。
パスワード	管理パスワードを入力します。入力した文字は「●」で表示されます。
パスワードの確認	管理パスワードを再入力します。入力した文字は「●」で表示されます。

YAMAHA UTM アプライアンスウィザード

認証の詳細 

デフォルトの管理者名の変更とパスワードの設定:

管理者名:

パスワード:

パスワードの確認:

管理者パスワードの条件に複雑さを設定

大文字と小文字を両方使用することを強くお勧めします。
また、次のいずれかの文字も含めることをお勧めします: !@#\$%^&*()-_+=:;

メーカーにデータを送信して製品の向上にご協力ください

ステップ 1/9 | 認証

< 戻る 次へ > 中止

3. 本製品の日付と時刻を設定し、「次へ」をクリックします。
本ガイドでは「手動で時刻を設定」を選択し、現在の日付と時刻を入力します。

項目	説明
日付	工場出荷時の状態では、グリニッジ標準時（GMT）の日付が入力されています。 日本標準時に合わせて、設定を変更してください。
時刻	工場出荷時の状態では、グリニッジ標準時（GMT）の時刻が入力されています。 日本標準時に合わせて、設定を変更してください。
タイムゾーン	工場出荷時の状態では、「(GMT+09:00) 東京 大阪 札幌」が選択されています（変更不要です）。

YAMAHA UTM アプライアンスウィザード

アプライアンスの日付と時刻の設定 

手動で時刻を設定

日付: 2020年10月12日 月曜日 

時刻: 10 : 00 AM 

タイムゾーン: (GMT+09:00) 東京 大阪 札幌 

ネットワークタイムプロトコル (NTP) の使用

1 番目の NTP サーバ: ntp.nict.jp

2 番目の NTP サーバ: ntp.nict.jp

タイムゾーン: (GMT+09:00) 東京 大阪 札幌 

ステップ 2/9 | 日付と時刻の設定

< 戻る **次へ >** 中止

4. 本製品の名前を登録し、「次へ」をクリックします。

項目	説明
アプライアンスの名前	この名前は、レポートメール配信時にメールの件名に記載されます。工場出荷時の状態では、「UTX-ID-XXXX(MACアドレス下8桁)」が入力されています。必要に応じて変更してください。
ドメイン名	必要に応じて入力してください。



お知らせ

- 。「アプライアンスの名前」と「ドメイン名」は、日本語には対応していません。半角英数字と「-」（ハイフン）で入力してください。

YAMAHA UTM アプライアンスウィザード

アプライアンスの名前 



アプライアンスの名前:

ドメイン名:

例: mycompany.com

ステップ 3/9 | アプライアンスの名前

< 戻る **次へ >** 中止

5. セキュリティ設定の管理方法を選択し、「次へ」をクリックします。
本ガイドでは「ローカル管理」を選択します。

YAMAHA UTM アプライアンスウィザード

セキュリティ ポリシー管理 

セキュリティ設定の管理方法を選択

 ローカル管理
ローカル Web アプリケーションで
デバイスのセキュリティ ポリシーを管理

 一元管理
このデバイスを管理する管理サーバを使用

ステップ 4/9 | セキュリティ ポリシー管理

< 戻る **次へ >** 中止

6. インターネット接続の設定を行い、「次へ」をクリックします。

項目	説明
接続タイプ	工場出荷時の状態では、「ブリッジ」が選択されています（変更不要です）。
IPアドレス	本製品で使用するIPアドレスとして、上位ルーターのLAN側ネットワークのサブネットに属するアドレスを入力します。
サブネットマスク	設置環境のサブネットマスクを入力します。
デフォルトゲートウェイ	上位ルーターのLAN側のIPアドレスを入力します。
1番目のDNSサーバ	上位ルーターのLAN側のIPアドレスを入力します。
2番目のDNSサーバ	任意で入力します。

YAMAHA UTM アライアンスウィザード

インターネット接続

インターネット接続を今すぐ設定

接続タイプ:

IP アドレス:

サブネットマスク:

デフォルトゲートウェイ:

1番目のDNSサーバ:

2番目のDNSサーバ:

インターネット接続を後で設定

ステップ 5/9 | インターネット接続

7. 「今すぐ接続」画面で、「いいえ」をクリックします。

今すぐ接続

今すぐインターネットに接続しますか?

8. 本製品のWeb GUIへのアクセス制限を設定します。
ここでは例として、以下の内容を設定します。

項目	説明
「管理者アクセスを許可する発信元を選択してください。」	「WAN」だけにチェックを入れます。 ※「LAN」については、自動で許可設定になります（初期設定ウィザードでは、「LAN」の設定項目は表示されません）。
「上記で選択した発信元からのアクセスを下記のIPアドレスから許可」	「インターネットからの指定IPアドレス インターネット以外からの任意のIPアドレス」を選択します。 (手順9.で、アクセスを許可するIPアドレスを指定します)



お知らせ

- ・ 管理者アクセスの設定について、詳しくは「[管理者アクセスの設定を変更する](#)」をご覧ください。

YAMAHA UTM アプライアンスウィザード

管理者アクセス

管理者アクセスを許可する発信元を選択してください。

VPN WAN

上記で選択した発信元からのアクセスを下記の IP アドレスから許可

任意の IP アドレス
 特定の IP アドレスのみ
 インターネットからの指定 IP アドレス
インターネット以外からの任意の IP アドレス

特定の IP アドレスを設定するまで、インターネットからの管理者アクセスはブロックされます。

* 新規 × 削除

アイテムが見つかりません

ステップ 7/9 | 管理者アクセス

< 戻る 次へ > 中止

本製品をブリッジモードで運用する場合は、上位に設置したヤマハルーターの「ダッシュボード機能」や「LANマップ機能」を使用して、本製品を管理できます。

- ・ ヤマハルーターで本製品を管理する場合は、手順9.に進んでください。
- ・ ヤマハルーターで本製品を管理しない場合は、手順11.に進んでください。

9. 「新規」をクリックします。

10. 管理者アクセスを許可するネットワークを設定し、「適用」をクリックします。
本ガイドでは、以下の設定を入力します。

項目	説明
タイプ	「IPv4 ネットワーク」を選択します。 ※設定を変更すると、下の設定項目の表示が変わります。
ネットワークIP	本製品で使用するIPアドレスのネットワークアドレスを入力します。
サブネットマスク	設置環境のサブネットマスクを入力します。

11. 「次へ」をクリックします。

YAMAHA UTM アプライアンスウィザード

管理者アクセス

管理者アクセスを許可する発信元を選択してください。

VPN WAN

上記で選択した発信元からのアクセスを下記の IP アドレスから許可

任意の IP アドレス

特定の IP アドレスのみ

インターネットからの指定 IP アドレス
インターネット以外からの任意の IP アドレス

* 新規 × 削除

255.255.255.0 / 255.255.255.0

ステップ 7/9 | 管理者アクセス

< 戻る **次へ >** 中止

12. ライセンスを有効化します。
ここでは、トライアルライセンスを使用する場合の手順を説明します。「次へ」をクリックします。



重要

- ・ トライアルライセンスの有効期間は30日です。初期設定後、30日以内に「[ライセンスを有効化する](#)」の手順を行い、正式ライセンスを有効にしてください。

YAMAHA UTM アプライアンスウィザード

アプライアンスの登録

[ライセンスの有効化] をクリックすると、登録ステータスを確認できます。
インターネットに接続している必要があります。

MAC アドレス: [MAC アドレス]

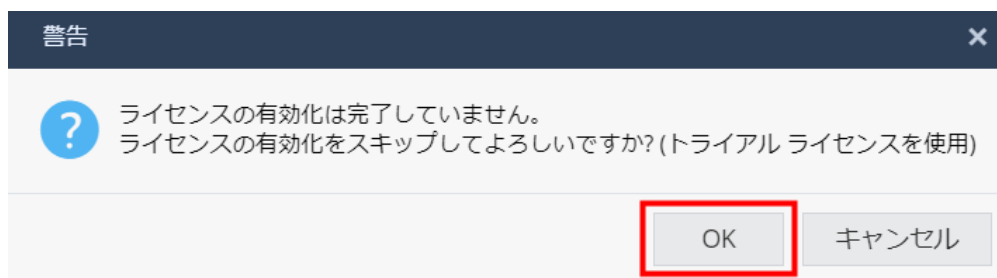
登録キー: [登録キー]

ライセンスの有効化 | オフライン | [プロキシの設定](#)

ステップ 8/9 | 有効化

< 戻る **次へ >** 中止

- 「警告」画面で、「OK」をクリックします。



- 有効にするセキュリティ機能 (Software Blade) を選択し、「次へ」をクリックします。本ガイドでは、すべての機能を有効に設定します。



15. 初期設定ウィザードで設定した内容を確認します。
問題がないことを確認し、「完了」をクリックします。

The screenshot shows the 'YAMAHA UTM アプライアンスウィザード' (YAMAHA UTM Appliance Wizard) completion screen. The title bar is dark blue with white text. Below the title, it says '初期設定ウィザードが完了しました。' (Initial setup wizard is complete). The main content area is light gray and contains the following information:

- 管理者名: admin
- システム時刻: Monday, October 12, 2020 10:05 AM
- アプライアンスの名前: UTX-ID- [redacted]
- WAN: ✔ 保存しました
- ライセンス: ✔ トライアル
- ローカルネットワーク: [redacted] 255.255.255.0
DHCP サーバは無効です。
⚠ br0 にセカンダリ IP アドレスが設定されました。 i
- セキュリティ ポリシー モード: ローカル管理
- アクティブなブレード: Firewall, Application Control, URL Filtering, User Awareness, Remote Access, Site To Site VPN, Intrusion Prevention (IPS), Anti-Virus, Anti-Bot, Anti-Spam

At the bottom right, there are two buttons: '< 戻る' (Back) and '完了' (Complete). The '完了' button is highlighted with a red rectangular box.

初期設定ウィザードの設定が完了すると、Web GUIのトップページが表示されます。

The screenshot shows the YAMAHA UTM Web GUI home page. The top navigation bar is black with the YAMAHA logo on the left, 'admin | ログアウト |' in the center, and a search bar on the right. The main content area is divided into a left sidebar and a main panel. The sidebar is dark gray with white icons and text for navigation: ホーム (Home), デバイス (Devices), アクセスポリシー (Access Policy), 脅威対策 (Threat Protection), VPN, ユーザ & オブジェクト (Users & Objects), and ログ & モニタリング (Logs & Monitoring). The main panel is titled 'システム' (System) and contains several sections:

- システム情報** (System Information): Displays 'Yamaha UTM アプライアンス' with a device image. Details include: バージョン: R80.20.15 (992001670), 名前: UTX-ID- [redacted], MAC: [redacted], and 2021年1月8日 金曜日 2:28:39 PM (GMT+09:00) 東京 大阪 札幌. システムの起動期間: 0 日, 0 時間, 5 分, 9 秒.
- ネットワーク** (Network): Shows 'インターネット接続' (Internet Connection) with a blue link. Below it, 'インターネットアクセスなし' (No Internet Access) is displayed with a globe icon. 接続タイプ: ブリッジ | インタフェース: WAN | IPv4 アドレス: [redacted].
- 通知** (Notifications): Shows '通知ページ' (Notification Page) with a blue link.
- WATCHTOWER モバイル アプリ** (WATCHTOWER Mobile App): Features a 'NEW!' badge and text: 'セキュリティ アラートをモバイルで受信' (Receive security alerts on mobile) and 'いつでもネットワークをモニタリング、セキュリティ脅威に迅速に対応可能、ネット' (Monitor network anytime, respond quickly to security threats, network).

16. いったん本製品を再起動します。
「デバイス」、「システム操作」の順にクリックします。

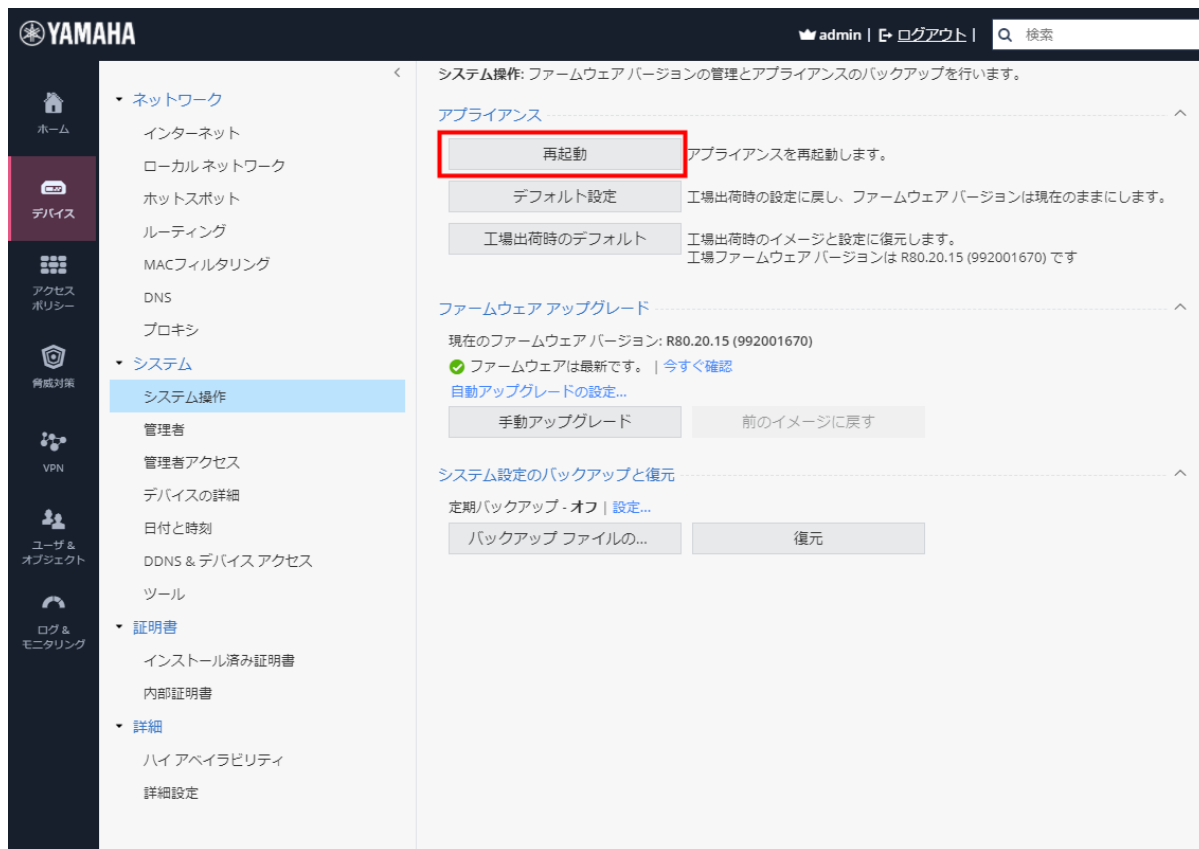
注意



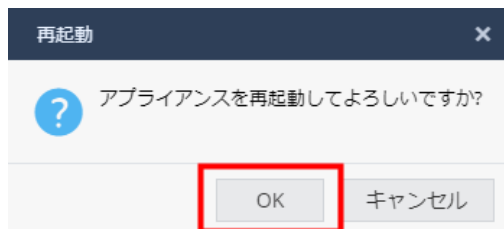
- ・初期設定ウィザードの設定を終えた後は、必ず再起動を実施してください。再起動を実施していない場合、インターネット接続やクラウド接続、シグネチャ更新などが正常に行われられない可能性があります。

The screenshot shows the Yamaha management interface. The left sidebar contains a navigation menu with the following items: ホーム (Home), デバイス (Devices), アクセスポリシー (Access Policy), 脅威対策 (Threat Protection), VPN, ユーザ & オブジェクト (Users & Objects), ログ & モニタリング (Logs & Monitoring). The 'デバイス' (Devices) item is highlighted with a red box. Under 'デバイス', the 'システム' (System) category is expanded, and 'システム操作' (System Operation) is highlighted with a red box. The main content area shows the 'System Operation' page, which includes options for '再起動' (Restart), 'デフォルト設定' (Default Settings), and '工場出荷時のデフォルト' (Factory Default). It also displays the current firmware version (R80.20.15) and a confirmation message that the firmware is up to date.

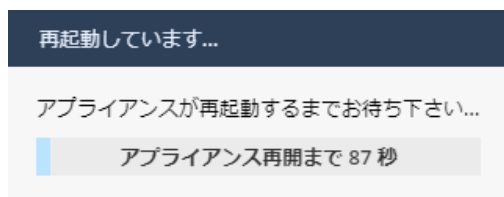
17. 「再起動」をクリックします。



18. 「OK」をクリックします。



再起動が始まります。
再起動が完了すると、POWERインジケーターが青色の点滅から点灯に変わります。



5.1.5. 本製品のWeb GUIにログインする

重要

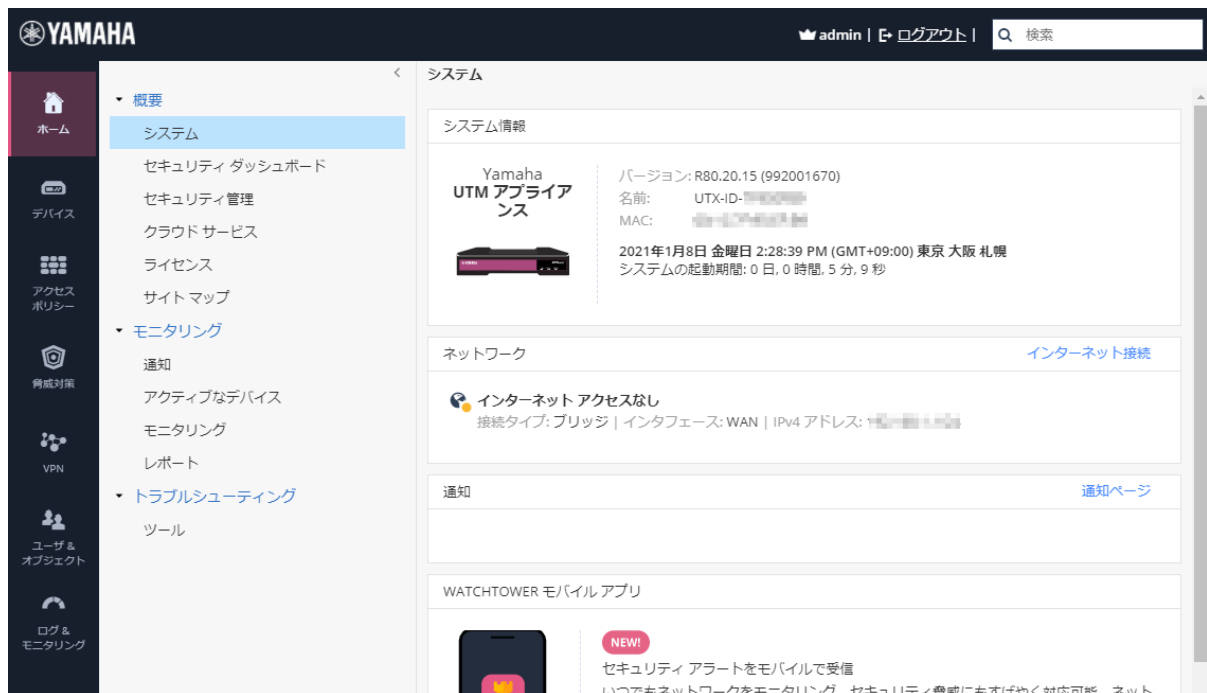


- 本製品のネットワークアドレスを初期設定（192.168.1.0/24）から変更した場合は、以降の手順を行う前に、本製品に接続したコンピューターのIPアドレスを、本製品と同一セグメントとなるように設定してください。設定の流れについては、「[コンピューターのネットワーク設定をする](#)」をご覧ください。

1. コンピューターでWebブラウザを起動します。
2. アドレスバーに「https://（本製品のIPアドレス）:4434/」と半角英数字で入力して、Enterキーを押します。
3. 初期設定ウィザードで設定したユーザ名とパスワードを入力し、「ログイン」をクリックします。



Web GUIのトップページが表示されます。



5.1.6. 本製品をネットワークに接続する

本製品のWANポートと、上位ルーターのLANポートとを、LANケーブルで接続します。
ネットワーク接続が完了すると、Web GUI のトップページに「インターネット 接続」と表示されます。



5.1.7. ライセンスを有効化する

トライアルライセンスの有効期間は30日です。
トライアル期間内に「[ライセンスを有効化する](#)」の手順を行い、正式ライセンスを有効にしてください。

重要

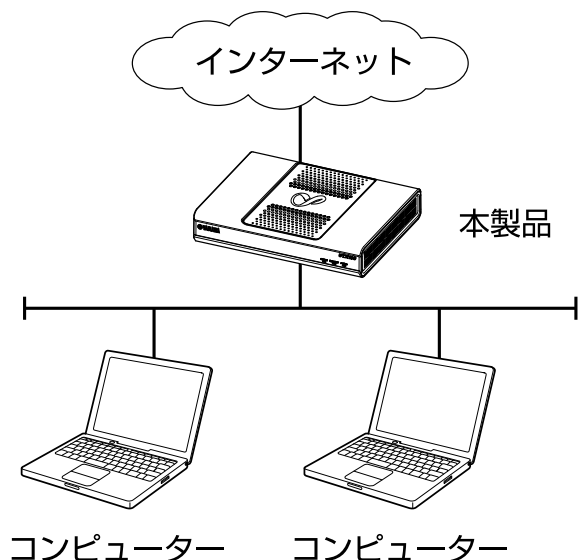


- 正式ライセンスを有効化する前に、ライセンス登録用Webフォームでライセンス登録を行う必要があります。
ライセンス登録用Webフォーム：<https://utx.network.yamaha.com>
- 正式ライセンスを有効化する前にトライアルライセンスが満了した場合、本製品のセキュリティ機能が使用できなくなります。ライセンス登録および正式ライセンスの有効化は、お早めに実施してください。

5.2. ルーターモードで利用する場合

本製品をルーターモードで利用する場合の、初期設定の手順を説明します。
本製品の設定変更は、本製品に接続したコンピューターのWebブラウザで、Web GUIを開いて行います。

■ルーターモードでの利用イメージ



お知らせ



- ・ 本製品をルーターモードで運用する場合は、ヤマハルーターの「ダッシュボード機能」や「LANマップ機能」を使用した機器管理はできません。

■ご用意いただくもの

- ・ コンピューター
本製品の設定を行うコンピューターをご用意ください。

お知らせ



- ・ 本製品の設定変更には、Webブラウザが必要です。推奨Webブラウザについては、以下のURLをご覧ください。
ヤマハネットワーク製品Web GUIのWebブラウザ対応状況：
<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/FAQ/gui/browser.html>

- ・ LANケーブル
付属のLANケーブルまたは、コンピューターまでの距離に合わせて、別途LANケーブルをご用意ください。

お知らせ



- ・ 1000BASE-Tでご使用になる場合は、エンハンスドカテゴリ5（CAT5e）以上のLANケーブルをご用意ください。

- ネットワークの情報

本製品に接続するインターネット回線の情報をご用意ください。

たとえばPPPoE接続の場合は、プロバイダーから通知される以下の情報が必要です。

- ユーザーID
- パスワード



お知らせ

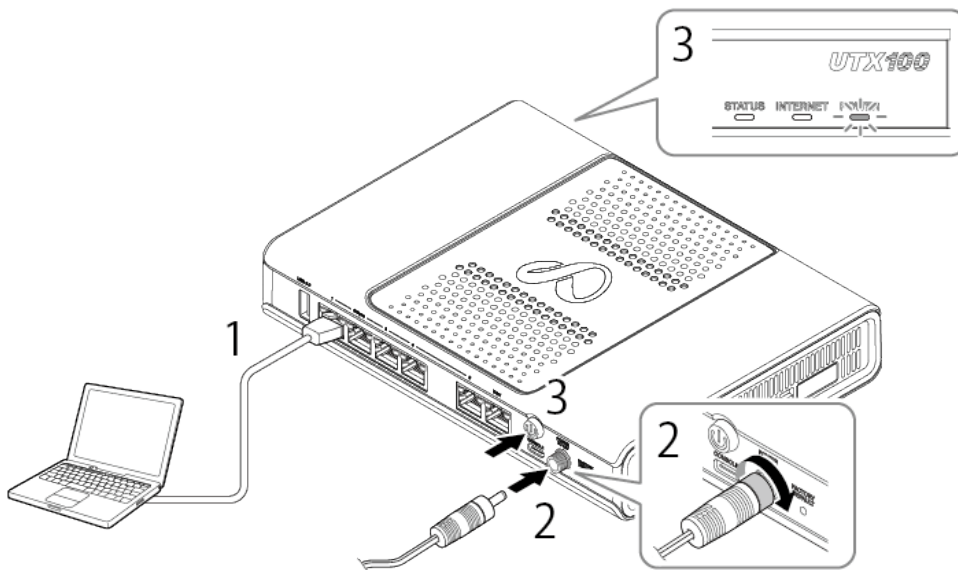
- 本ガイドでは、PPPoE方式のインターネット回線を使用する場合を例に説明します。

■手順の流れ

1. [本製品とコンピューターを接続する](#)
2. [コンピューターのネットワーク設定をする](#)
3. [本製品の初期設定ウィザードを開く](#)
4. [初期設定をする](#)
5. [本製品のWeb GUIにログインする](#)
6. [本製品をネットワークに接続する](#)
7. [ライセンスを有効化する](#)

5.2.1. 本製品とコンピューターを接続する

初期設定が完了するまで、インターネット回線のケーブルは接続せずに操作を行います。



1. 本製品のLANポートにコンピューターを接続します。
2. 本製品に電源アダプターを接続します。
付属の電源アダプターを電源コネクタに接続し、抜け防止ナットを締め付けて固定してください。



お知らせ

- 。詳しくは、「[電源アダプターを接続する](#)」をご覧ください。

3. 本製品の電源を入れます。

【UTX100】電源ボタンを押します。

【UTX200】手順2. の時点で、自動的に電源が入ります。

起動が完了すると、POWERインジケーターが青色の点滅から点灯に変わります。



お知らせ

- 。起動が完了するまで、約2～3分かかります。

5.2.2. コンピューターのネットワーク設定をする

本製品は、工場出荷時の状態では、DHCPサーバーの設定が有効になっています。
本製品のWeb GUIを開くために、設定用のコンピューターのIPアドレスを、DHCPで自動取得できるように変更します。

なお、コンピューターのIPアドレスの設定方法は、OSにより異なります。本ガイドでは、Windows 10を例に説明します。

注意



- ・ コンピューターには管理者権限をもつユーザー名でログオンしてください。管理者権限については、OSのヘルプなどをご覧ください。

1. スタートメニュー画面から「設定アイコン」 () - 「ネットワークとインターネット」の順にクリックします。
2. 「アダプターのオプションを変更する」をクリックします。

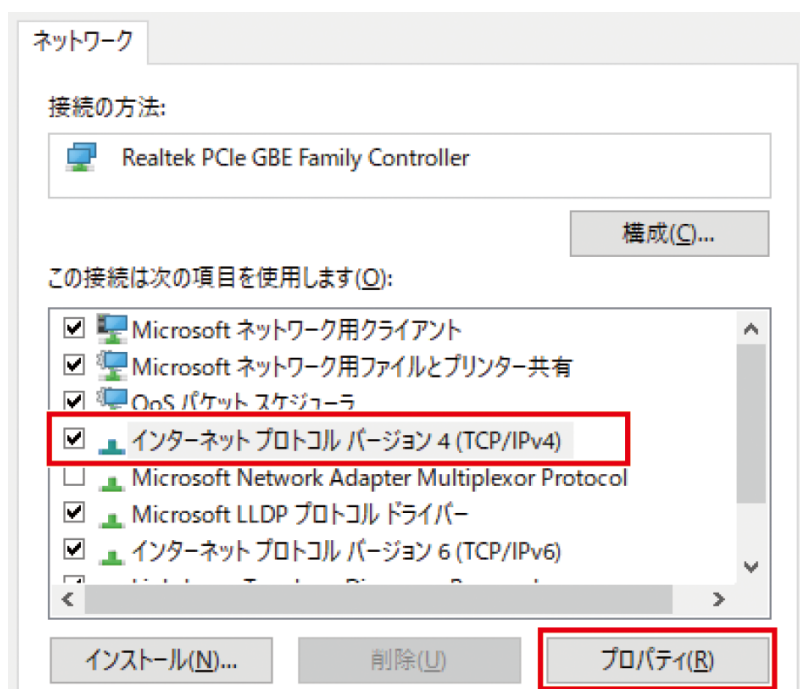


The screenshot shows the Windows 10 Network Status page. On the left is a navigation pane with 'ホーム' (Home) at the top, followed by a search bar '設定の検索'. Below that is 'ネットワークとインターネット', and '状態' (Status) is highlighted in blue. Other options include 'イーサネット', 'ダイヤルアップ', 'VPN', 'データ使用状況', and 'プロキシ'. The main content area is titled '状態' (Status) and 'ネットワークの状態' (Network Status). It shows a diagram of a laptop connected to a network icon labeled 'イーサネット science.co.jp', which is then connected to a globe icon representing the Internet. Below the diagram, it states 'インターネットに接続されています' (Connected to the Internet) and provides information about data plans and metered connections. There are links for '接続プロパティの変更' (Change connection properties) and '利用できるネットワークの表示' (Show available networks). At the bottom, under 'ネットワーク設定の変更' (Change network settings), the option 'アダプターのオプションを変更する' (Change adapter options) is highlighted with a red box. The text below it says 'ネットワーク アダプターを表示して接続設定を変更します。' (Show network adapters and change connection settings).

3. 変更するアダプターを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
変更するアダプターのプロパティ画面が表示されます。



4. 「この接続は次の項目を使用します」項目で「インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4)」を選択し、「プロパティ」をクリックします。
「インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4) のプロパティ」画面が表示されます。



5. 「IPアドレスを自動的に取得する」と、「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択します。

全般 代替の構成

ネットワークでこの機能がサポートされている場合は、IP 設定を自動的に取得することができます。サポートされていない場合は、ネットワーク管理者に適切な IP 設定を問い合わせてください。

IP アドレスを自動的に取得する(O)

次の IP アドレスを使う(S):

IP アドレス(I):

サブネット マスク(U):

デフォルト ゲートウェイ(D):

DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する(B)

次の DNS サーバーのアドレスを使う(E):

優先 DNS サーバー(P):

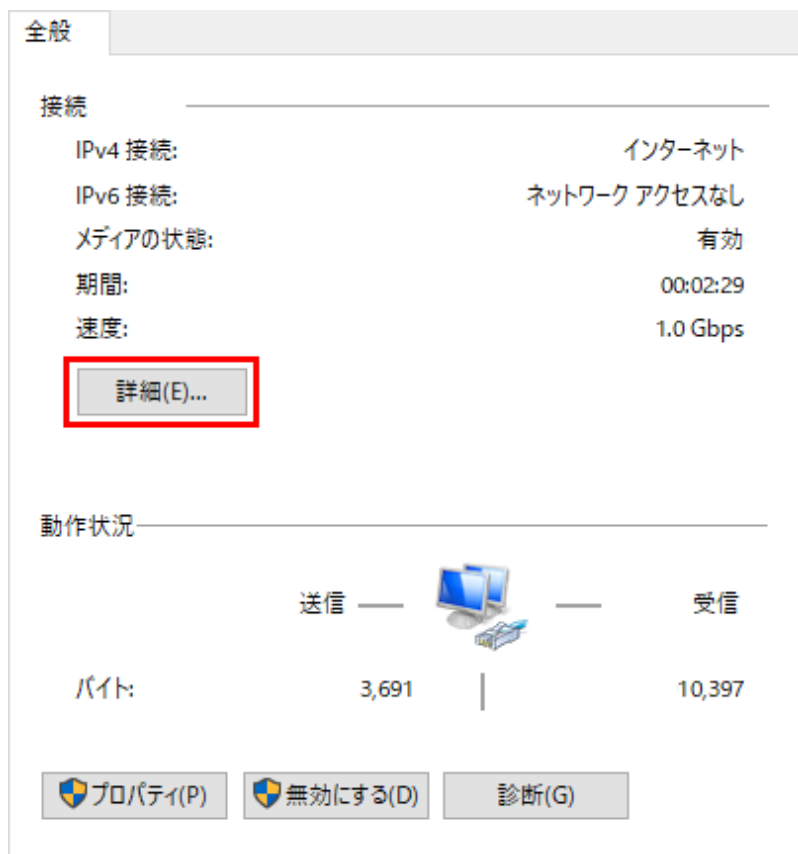
代替 DNS サーバー(A):

終了時に設定を検証する(L) 詳細設定(V)...

6. 「OK」をクリックします。
「インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4) のプロパティ」画面が閉じます。
7. 「閉じる」をクリックします。
変更したアダプターのプロパティ画面が閉じます。
8. (以降の手順で、コンピューターがIPアドレスを正常に取得できていることを確認します)
手順3.と同じアダプターを右クリックし、「状態」をクリックします。



9. 「詳細」をクリックします。
「ネットワーク接続の詳細」画面が表示されます。



全般

接続

IPv4 接続: インターネット
IPv6 接続: ネットワーク アクセスなし
メディアの状態: 有効
期間: 00:02:29
速度: 1.0 Gbps

詳細(E)...

動作状況

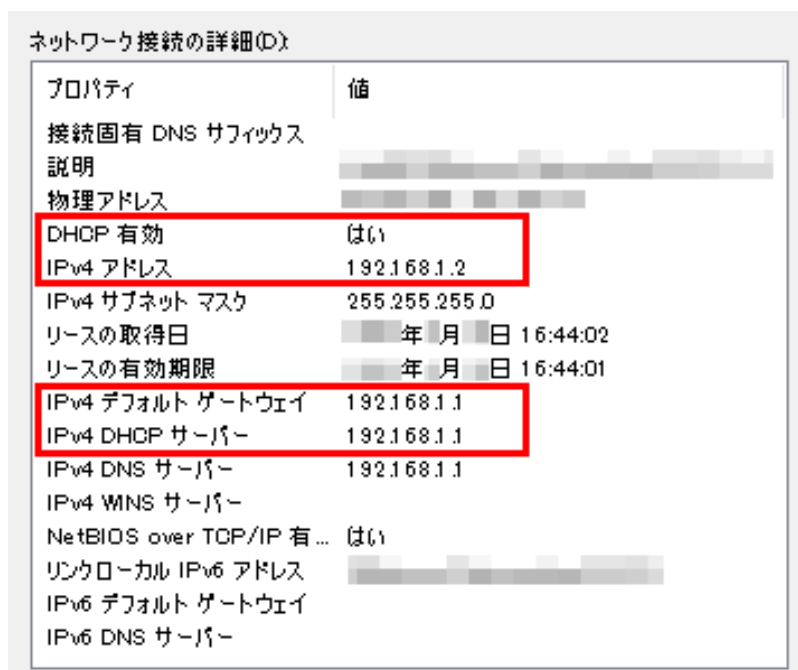
送信 受信

バイト: 3,691 | 10,397

プロパティ(P) 無効にする(D) 診断(G)

IPアドレスを正常に取得できている場合は、以下のように表示されます。

- 「DHCP 有効」が「はい」になっている
- 「IPv4 アドレス」「IPv4 デフォルトゲートウェイ」「IPv4 DHCP サーバー」の、IPアドレスが表示されている



ネットワーク接続の詳細(D)

プロパティ	値
接続固有 DNS サフィックス	
説明	
物理アドレス	
DHCP 有効	はい
IPv4 アドレス	192.168.1.2
IPv4 サブネット マスク	255.255.255.0
リースの取得日	年 月 日 16:44:02
リースの有効期限	年 月 日 16:44:01
IPv4 デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1
IPv4 DHCP サーバー	192.168.1.1
IPv4 DNS サーバー	192.168.1.1
IPv4 WINS サーバー	
NetBIOS over TCP/IP 有...	はい
リンクローカル IPv6 アドレス	
IPv6 デフォルトゲートウェイ	
IPv6 DNS サーバー	

5.2.3. 本製品の初期設定ウィザードを開く

本製品に接続したコンピュータで、Web GUIの初期設定ウィザードを開きます。

重要



- 本製品のWANポートにケーブルを接続した状態で手順を行うと、本ガイドの案内どおりに設定できない可能性があります。
 - 本製品のWANポートにケーブルが接続されていないことを確認してください。
 - LANポートへのケーブル接続は、初期設定ウィザードの設定を終えた後、「[本製品をネットワークに接続する](#)」で行います。
- 初期設定ウィザードは、本製品の設定が工場出荷時の状態のときだけ表示されます。以下の手順を行っても初期設定ウィザードが表示されない場合は、本製品の設定を工場出荷時の状態に戻してください。詳しくは、「[本製品の設定を工場出荷時の状態に戻す](#)」をご覧ください。

お知らせ



- 本製品の設定変更には、Webブラウザが必要です。推奨Webブラウザについては、以下のURLをご覧ください。
ヤマハネットワーク製品Web GUIのWebブラウザ対応状況：
<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/FAQ/gui/browser.html>
- 本ガイドでは、Google Chromeを利用する場合を例に説明します。

1. コンピューターでWebブラウザを起動します。
2. アドレスバーに「https://192.168.1.1:4434/」と半角英数字で入力して、Enterキーを押します。
3. 「詳細設定」をクリックします。

この接続ではプライバシーが保護されません

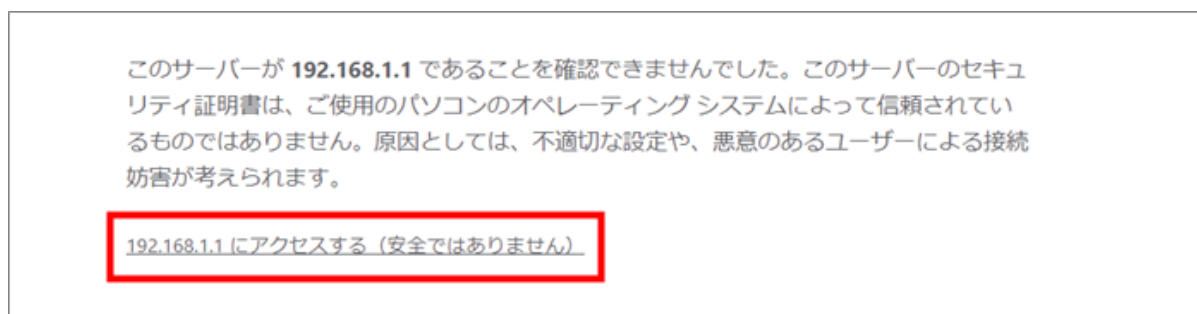
192.168.1.1 では、悪意のあるユーザーによって、パスワード、メッセージ、クレジットカードなどの情報が盗まれる可能性があります。詳細

NET::ERR_CERT_AUTHORITY_INVALID

アクセスしたページのURL、システム情報、およびページのコンテンツの一部を Google に送信して、ウェブ全体のセキュリティ強化にご協力ください。プライバシーポリシー

[詳細設定](#) [セキュリティで保護されたページに戻る](#)

4. 「192.168.1.1にアクセスする（安全ではありません）」をクリックします。



本製品の初期設定ウィザードが表示されます。



お知らせ

- 。 右上のメニューから、初期設定ウィザードの表示言語を切り替えることができます。

5.2.4. 初期設定をする

初期設定ウィザードの案内にしたがって、初期設定を行います。

重要



- 初期設定ウィザードの途中で設定を中止した場合は、それまでの設定内容が保存され、初期設定ウィザードが完了します。
 - 設定を中止した後で、初期設定ウィザードを再開することはできません。
 - 初期設定ウィザードをもう一度操作したい場合は、本製品の設定を工場出荷時の状態に戻してください。詳しくは、「[本製品の設定を工場出荷時の状態に戻す](#)」をご覧ください。

1. 「次へ」をクリックします。



2. 管理ユーザー情報を設定し、「次へ」をクリックします。

項目	説明
管理者名	工場出荷時の状態では、「admin」が入力されています。セキュリティ確保のため、変更することを強く推奨します。
パスワード	管理パスワードを入力します。入力した文字は「●」で表示されます。
パスワードの確認	管理パスワードを再入力します。入力した文字は「●」で表示されます。

YAMAHA UTM アプライアンスウィザード

認証の詳細 

デフォルトの管理者名の変更とパスワードの設定:

管理者名:

パスワード:

パスワードの確認:

管理者パスワードの条件に複雑さを設定

大文字と小文字を両方使用することを強くお勧めします。
また、次のいずれかの文字も含めることをお勧めします: !@#\$%^&*()-_+=:;

メーカーにデータを送信して製品の向上にご協力ください

ステップ 1/9 | 認証

< 戻る **次へ >** 中止

3. 本製品の日付と時刻を設定し、「次へ」をクリックします。
本ガイドでは「手動で時刻を設定」を選択し、現在の日付と時刻を入力します。

項目	説明
日付	工場出荷時の状態では、グリニッジ標準時（GMT）の日付が入力されています。 日本標準時に合わせて、設定を変更してください。
時刻	工場出荷時の状態では、グリニッジ標準時（GMT）の時刻が入力されています。 日本標準時に合わせて、設定を変更してください。
タイムゾーン	工場出荷時の状態では、「(GMT+09:00) 東京 大阪 札幌」が選択されています（変更不要です）。

YAMAHA UTM アプライアンスウィザード

アプライアンスの日付と時刻の設定


手動で時刻を設定

日付: 

時刻: :

タイムゾーン:

ネットワークタイムプロトコル (NTP) の使用

1 番目の NTP サーバ:

2 番目の NTP サーバ:

タイムゾーン:

ステップ 2/9 | 日付と時刻の設定

< 戻る
次へ >
中止

4. 本製品の名前を登録し、「次へ」をクリックします。

項目	説明
アプライアンスの名前	この名前は、レポートメール配信時にメールの件名に記載されます。工場出荷時の状態では、「UTX-ID-XXXX(MACアドレス下8桁)」が入力されています。必要に応じて変更してください。
ドメイン名	必要に応じて入力してください。



お知らせ

- 。「アプライアンスの名前」と「ドメイン名」は、日本語には対応していません。半角英数字と「-」（ハイフン）で入力してください。

YAMAHA UTM アプライアンスウィザード

アプライアンスの名前 



アプライアンスの名前:

ドメイン名:

例: mycompany.com

ステップ 3/9 | アプライアンスの名前

< 戻る **次へ >** 中止

5. セキュリティ設定の管理方法を選択し、「次へ」をクリックします。
本ガイドでは「ローカル管理」を選択します。

YAMAHA UTM アプライアンスウィザード

セキュリティ ポリシー管理 

セキュリティ設定の管理方法を選択

 ローカル管理
ローカル Web アプリケーションで
デバイスのセキュリティ ポリシーを管理

 一元管理
このデバイスを管理する管理サーバを使用

ステップ 4/9 | セキュリティ ポリシー管理

< 戻る **次へ >** 中止

6. インターネット接続の設定を行い、「次へ」をクリックします。
本ガイドでは、PPPoE接続する場合を例に説明します。

項目	説明
接続タイプ	「PPPoE」を選択します。 ※設定を変更すると、下の設定項目の表示が変わります。
ISP ログイン ユーザ名	プロバイダーから通知されたユーザー名を入力します。
ISP ログイン パスワード	プロバイダーから通知されたパスワードを入力します。

YAMAHA UTM アライアンスウィザード

インターネット接続

インターネット接続を今すぐ設定

接続タイプ: PPPoE

ISP ログイン ユーザ名: [masked]

ISP ログイン パスワード: [masked]

接続

インターネット接続を後で設定

ステップ 5/9 | インターネット接続

< 戻る **次へ >** 中止

7. 「今すぐ接続」画面で、「いいえ」をクリックします。

今すぐ接続

? 今すぐインターネットに接続しますか?

はい いいえ

8. 「次へ」をクリックします。

YAMAHA UTM アプライアンスウィザード

インターネット接続

YAMAHA

インターネット接続を今すぐ設定

接続タイプ:

ISP ログイン ユーザー名:

ISP ログイン パスワード:

インターネット接続を後で設定

WAN ケーブル未接続



ステップ 5/9 | インターネット接続

9. ローカルネットワークの設定を行い、「次へ」をクリックします。

項目	説明
LANポートのスイッチを有効にする	チェックを入れます。
IPアドレス	本製品で使用するIPアドレスを入力します。
サブネットマスク	本製品で使用するネットワークのサブネットマスクを入力します。
DHCP サーバ	本ガイドでは「有効」を選択します。
DHCP 範囲	本製品がDHCPで配布する、IPアドレスの範囲を入力します。

YAMAHA UTM アプライアンスウィザード

ローカル ネットワーク



LAN設定

LAN ポートのスイッチを有効にする

ネットワーク名: LAN スイッチ

IP アドレス:

サブネット マスク:

DHCP 設定

DHCP サーバ: 有効

DHCP 範囲: :

デバイスの IP アドレスは DHCP の範囲から自動的に除外されます。

除外の範囲: not mandatory : 任意



LAN スイッチ
LAN ポート間のトラフィックはインスペクトされません。



ステップ 6/9 | LAN

< 戻る
次へ >
中止

10. 本製品のWeb GUIへのアクセス制限を設定し、「次へ」をクリックします。
ここでは例として、以下の内容を設定します。

項目	説明
「管理者アクセスを許可する発信元を選択してください。」	「LAN」にチェックを入れます。 VPNを使用する場合は、「VPN」にもチェックを入れます。
「上記で選択した発信元からのアクセスを下記のIPアドレスから許可」	「インターネットからの指定IPアドレス インターネット以外からの任意のIPアドレス」を選択します。



お知らせ

- 。管理者アクセスの設定について、詳しくは「[管理者アクセスの設定を変更する](#)」をご覧ください。

YAMAHA UTM アプライアンスウィザード

管理者アクセス

管理者アクセスを許可する発信元を選択してください。

LAN VPN WAN

上記で選択した発信元からのアクセスを下記の IP アドレスから許可

任意の IP アドレス
 特定の IP アドレスのみ
 インターネットからの指定 IP アドレス
インターネット以外からの任意の IP アドレス

* 新規 × 削除

アイテムが見つかりません

ステップ 7/9 | 管理者アクセス

< 戻る **次へ >** 中止

11. ライセンスを有効化します。
ここでは、トライアルライセンスを使用する場合の手順を説明します。「次へ」をクリックします。

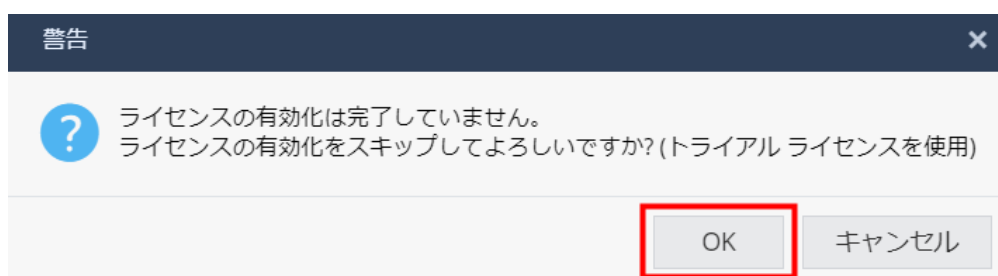
重要



- 。トライアルライセンスの有効期間は30日です。初期設定後、30日以内に「[ライセンスを有効化する](#)」の手順を行い、正式ライセンスを有効にしてください。



12. 「警告」画面で、「OK」をクリックします。



- 有効にするセキュリティー機能（Software Blade）を選択し、「次へ」をクリックします。本ガイドでは、すべての機能を有効に設定します。

YAMAHA UTM アプライアンスウィザード

Software Blade の有効化

有効にする Software Blades を選択してください。

アクセス コントロール ----- VPN

 ファイアウォール

 アプリケーション & URL フィルタリング

 ユーザ認識

 リモート アクセス

 サイト間 VPN

THREAT PREVENTION -----

 侵入防止 (IPS)

 アンチウイルス

 アンチボット

 アンチスパム

 定義したポリシーに基づいて、好ましくない着信トラフィックをブロックし、内部および発信トラフィックを許可することで、安全かつ信頼できる業務環境を実現します。

ステップ 9/9 | Software Blade の有効化

< 戻る **次へ >** 中止

- 初期設定ウィザードで設定した内容を確認します。問題がないことを確認し、「完了」をクリックします。

YAMAHA UTM アプライアンスウィザード

初期設定ウィザードが完了しました。

管理者名: admin

システム時刻: Monday, October 12, 2020 10:05 AM

アプライアンスの名前: UTX-ID-██████████

WAN: 保存しました

ライセンス: トライアル

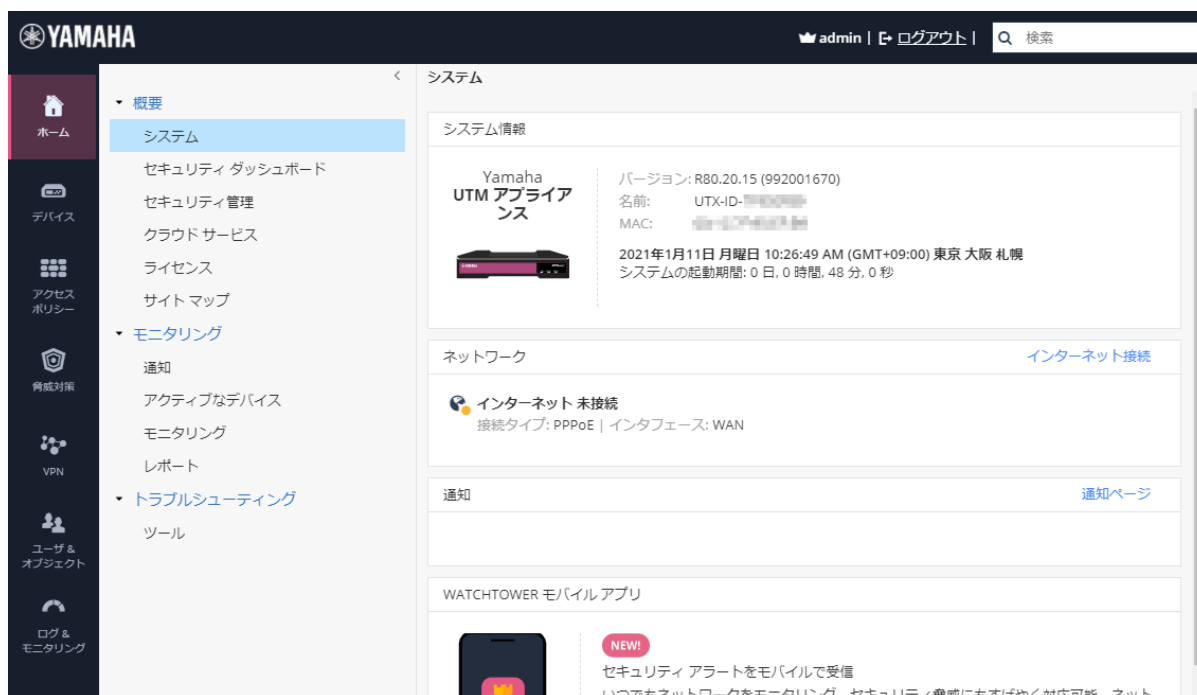
ローカル ネットワーク: ██████████ 255.255.255.0
DHCP サーバは有効です。

セキュリティ ポリシー モード: ローカル管理

アクティブなブレード: Firewall, Application Control, URL Filtering, User Awareness, Remote Access, Site To Site VPN, Intrusion Prevention (IPS), Anti-Virus, Anti-Bot, Anti-Spam

< 戻る **完了**

初期設定ウィザードの設定が完了すると、Web GUIのトップページが表示されます。

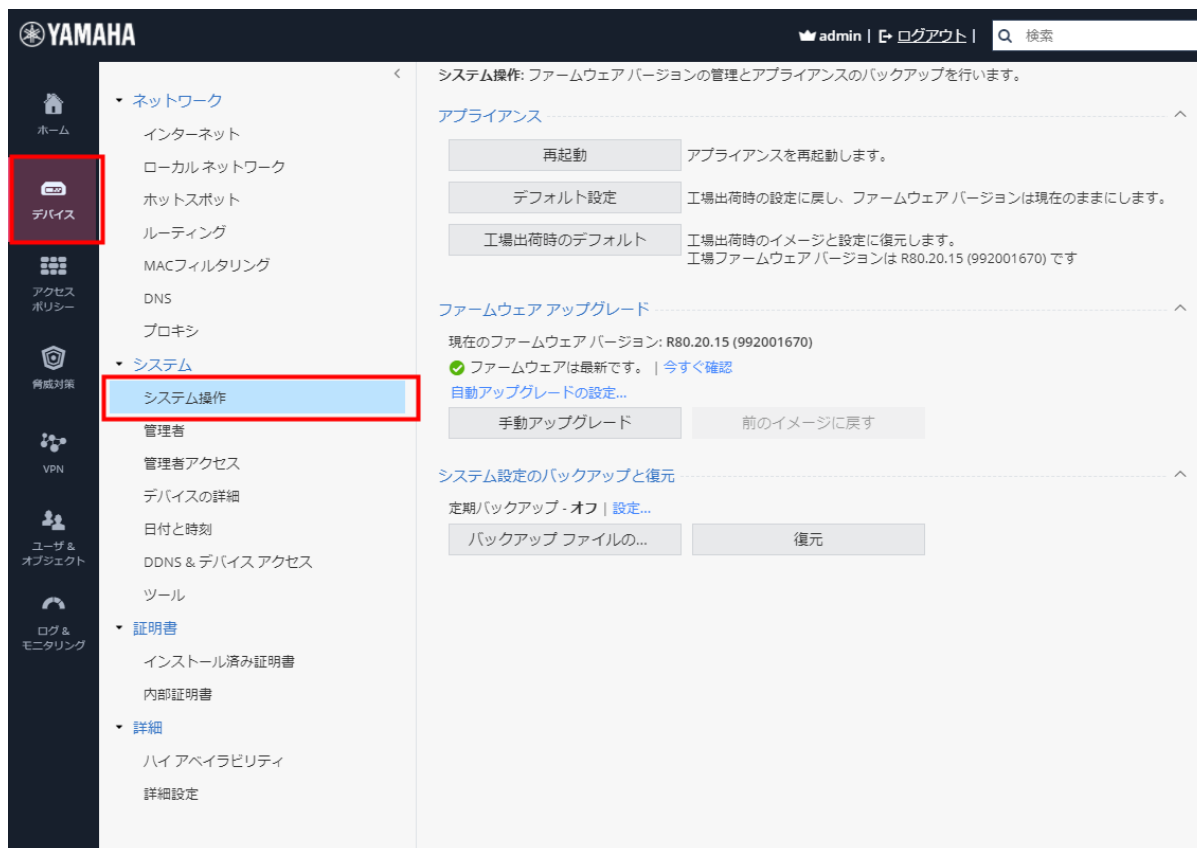


15. いったん本製品を再起動します。
「デバイス」、「システム操作」の順にクリックします。

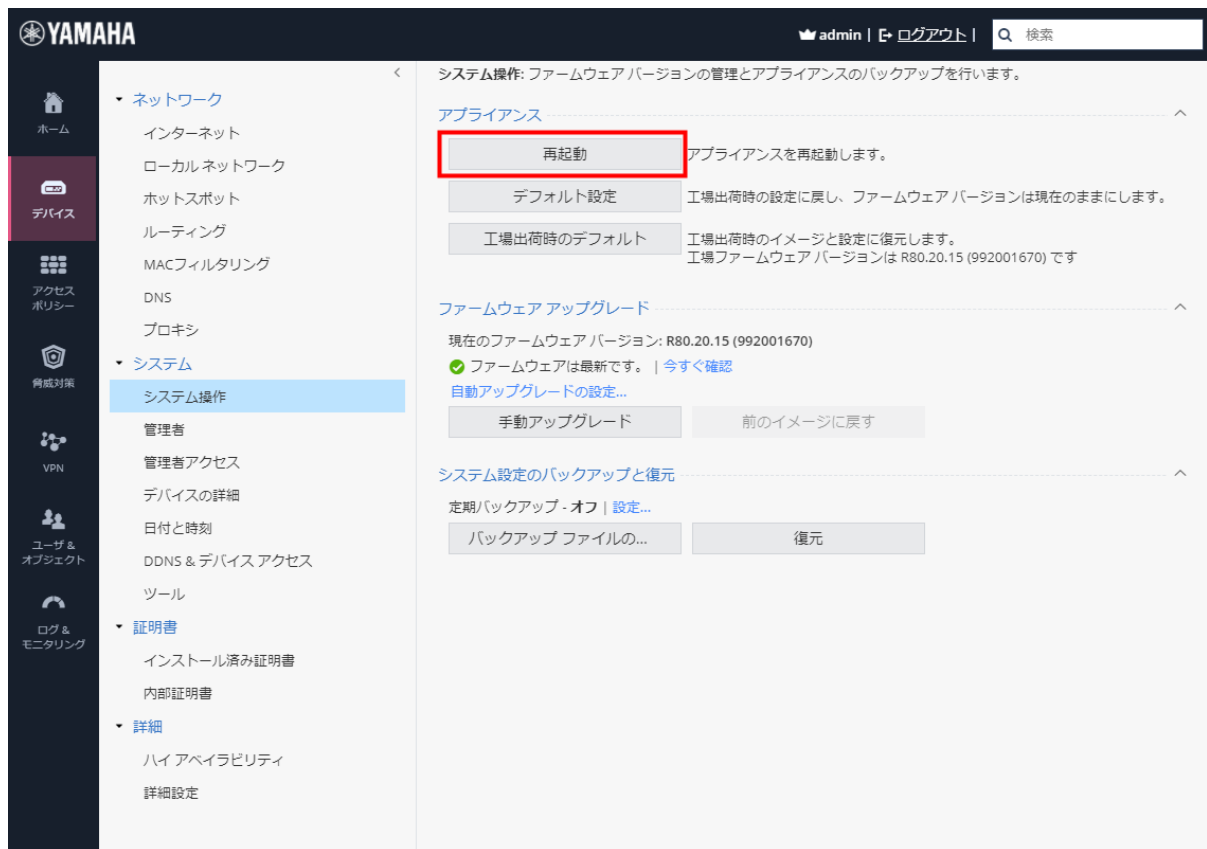
注意



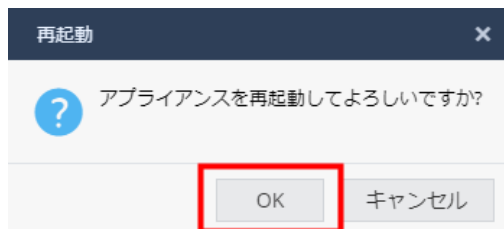
- 初期設定ウィザードの設定を終えた後は、必ず再起動を実施してください。再起動を実施していない場合、インターネット接続やクラウド接続、シグネチャ更新などが正常に行われない可能性があります。



16. 「再起動」をクリックします。

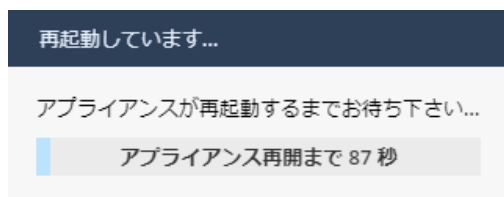


17. 「OK」をクリックします。



再起動が始まります。

再起動が完了すると、POWERインジケーターが青色の点滅から点灯に変わります。



5.2.5. 本製品のWeb GUIにログインする

重要

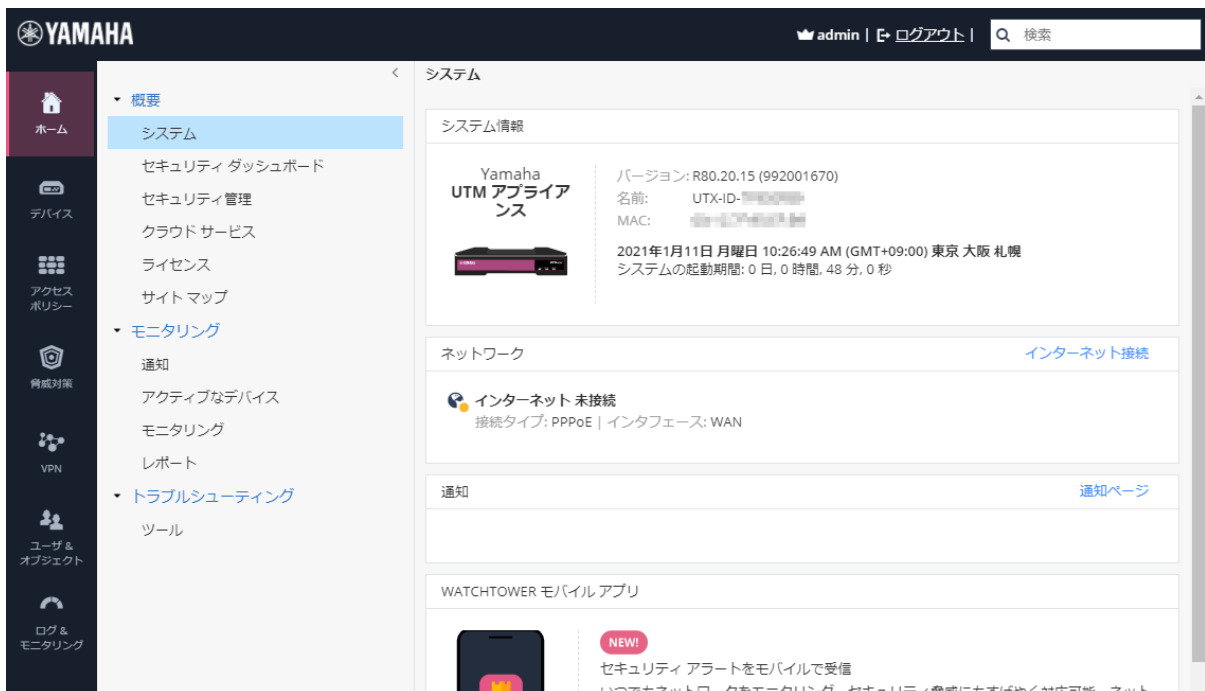


- 本製品のネットワークアドレスを初期設定（192.168.1.0/24）から変更した場合は、以降の手順を行う前に、本製品に接続したコンピューターのIPアドレスを、本製品と同一セグメントとなるように設定してください。設定の流れについては、「[コンピューターのネットワーク設定をする](#)」をご覧ください。

1. コンピューターでWebブラウザを起動します。
2. アドレスバーに「https://（本製品のIPアドレス）:4434/」と半角英数字で入力して、Enterキーを押します。
3. 初期設定ウィザードで設定したユーザ名とパスワードを入力し、「ログイン」をクリックします。



Web GUIのトップページが表示されます。



5.2.6. 本製品をネットワークに接続する

本製品のWANポートに、インターネット回線のケーブルを接続します。
ネットワーク接続が完了すると、Web GUI のトップページに「インターネット 接続」と表示されます。



5.2.7. ライセンスを有効化する

トライアルライセンスの有効期間は30日です。
トライアル期間内に「[ライセンスを有効化する](#)」の手順を行い、正式ライセンスを有効にしてください。

重要



- 正式ライセンスを有効化する前に、ライセンス登録用Webフォームでライセンス登録を行う必要があります。
ライセンス登録用Webフォーム：<https://utx.network.yamaha.com>
- 正式ライセンスを有効化する前にトライアルライセンスが満了した場合、本製品のセキュリティ機能が使用できなくなります。ライセンス登録および正式ライセンスの有効化は、お早めに実施してください。

5.3. ライセンスを有効化する

トライアルライセンスの有効期間は30日です。

トライアル期間内に以下の手順を行い、正式ライセンスを有効にしてください。

重要



- 正式ライセンスを有効化する前に、ライセンス登録用Webフォームでライセンス登録を行う必要があります。
ライセンス登録用Webフォーム：<https://utx.network.yamaha.com>
- 正式ライセンスを有効化する前にトライアルライセンスが満了した場合、本製品のセキュリティー機能が使用できなくなります。ライセンス登録および正式ライセンスの有効化は、お早めに実施してください。

お知らせ



- 「[本製品のWeb GUIにログインする](#)」の手順でログインしたことを前提に説明します。

- 「ホーム」、「ライセンス」の順にクリックします。

The screenshot shows the Yamaha UTM Web GUI interface. On the left, there is a dark navigation sidebar with icons for Home, Devices, Access Policies, Threat Protection, VPN, Users & Objects, and Logs & Monitoring. The 'Home' icon is highlighted with a red box. The main content area is titled 'システム' (System) and contains several sections: 'システム情報' (System Information) showing device details like 'Yamaha UTM アプライアンス', version 'R80.20.15', and a license expiration date of '2021年1月8日'; 'ネットワーク' (Network) showing 'インターネット接続' (Internet Connection) status; and '通知' (Notifications) with a list of recent events.

2. 「ライセンスの有効化」をクリックします。

The screenshot shows the Yamaha Security Center interface. The left sidebar contains navigation options like Home, Devices, Access Policies, Monitoring, and Troubleshooting. The main content area is titled 'Licenses: Display, management, and activation of licenses.' It features a table of software blades and their licenses.

Software Blade	有効期限	サービス
Firewall	Trial (30 days left)	CPSB-FW
Application Control	Trial (30 days left)	CPSB-APCL
URL Filtering	Trial (30 days left)	CPSB-URLF
Identity Awareness	Trial (30 days left)	CPSB-IA
Advanced Networking	Trial (30 days left)	CPSB-ADNC
IPS	Trial (30 days left)	CPSB-IPS
Anti-Virus	Trial (30 days left)	CPSB-AV
Anti-Bot	Trial (30 days left)	CPSB-ABOT
Anti-Spam	Trial (30 days left)	CPSB-ASPM
IPSec VPN	Trial (30 days left)	CPSB-VPN

Buttons at the bottom: **ライセンスの有効化** (highlighted), オフライン, プロキシの設定

3. 有効化の処理が完了すると、「警告」ダイアログが表示されます。「OK」をクリックし、ページの表示を更新します。

The warning dialog box contains the following text: 「新しいライセンスを使う際はページを更新してください。」 (When using a new license, please refresh the page.)

Buttons: **OK** (highlighted)

一覧テーブルの、各機能のライセンス有効期限が更新されます。
以上で、ライセンス有効化の手順は完了です。

The screenshot shows the same interface as before, but the 'Valid Period' column in the table is now highlighted with a red box, indicating that the licenses have been activated.

Software Blade	有効期限	サービス
Firewall	Never	CPSB-FW
Application Control	Jun 30, 2021	CPSB-APCL-S-1Y
URL Filtering	Jun 30, 2021	CPSB-URLF-S-1Y
Identity Awareness	Never	CPSB-IA
Advanced Networking	Never	CPSB-ADNC-SMB
IPS	Jun 30, 2021	CPSB-IPS-S-1Y
Anti-Virus	Jun 30, 2021	CPSB-AV-S-1Y
Anti-Bot	Jun 30, 2021	CPSB-ABOT-S-1Y
Anti-Spam	Jun 30, 2021	CPSB-ASPM-S-1Y
IPSec VPN	Never	CPSB-VPN

Buttons at the bottom: 再有効化, オフライン, プロキシの設定

6. VPN設定

本製品で構築できるVPNは、「[サイト間VPN](#)」と「[リモートアクセスVPN](#)」の2種類です。本章では、それぞれのVPNを構築する場合における、本製品の設定手順を説明します。

重要



- 本製品のVPN機能は、本製品をルーターモードで運用する場合に限り、利用可能です。ルーターモードについては、「[初期設定](#)」の「[■利用形態](#)」をご覧ください。
- 本製品のVPN機能を利用するには、ライセンスが必要です。正式ライセンスを有効にする手順については、「[ライセンスを有効化する](#)」をご覧ください。

6.1. サイト間VPNを構築する

サイト間VPNを構築する場合の、本製品の設定手順を説明します。本ガイドでは、リモートサイトとして、ヤマハルーターを使用する場合の設定手順を紹介します。

重要



- 本ガイドで紹介する設定値は、リモートサイトであるヤマハルーターに、以下の内容（Webサイト参照）を設定することを前提としています。
ヤマハネットワーク製品 設定例（UTM）：https://network.yamaha.com/setting/router_firewall/security/utm_appliance

お知らせ



- 「[本製品のWeb GUIにログインする](#)」の手順でログインしたことを前提に説明します。

1. 「VPN」、「サイト間 VPN」の「ブレード コントロール」の順にクリックします。
サイト間VPNの設定が「オン」であることを確認します。

お知らせ



- 。設定が「オフ」になっている場合は、「オン」を選択して「適用」をクリックしてください。

YAMAHA admin | ログアウト | 検索

サイト間 VPN コントロール

サイト間 VPN

VPN サイトが未定義です | [VPN サイト](#)

オン

オフ

リモートサイトからのトラフィックを許可 (デフォルト)

リモートサイトトラフィックのログ記録 (デフォルト)

適用 × キャンセル

2. 「VPN サイト」をクリックします。

YAMAHA admin | ログアウト | 検索

サイト間 VPN コントロール

サイト間 VPN

VPN サイトが未定義です | [VPN サイト](#)

オン

オフ

リモートサイトからのトラフィックを許可 (デフォルト)

リモートサイトトラフィックのログ記録 (デフォルト)

適用 × キャンセル

3. 「新規」をクリックします。

The screenshot shows the Yamaha VPN management interface. The top navigation bar includes the Yamaha logo, the user name 'admin', a 'Logout' button, and a search bar. The left sidebar contains a menu with categories: 'リモートアクセス' (Remote Access), 'サイト間 VPN' (Site-to-Site VPN), and '証明書' (Certificates). Under 'リモートアクセス', 'VPN サイト' (VPN Site) is selected. The main content area is titled 'VPN サイト: リモート VPN サイトを設定します。' (VPN Site: Set up remote VPN sites). It features a search bar with the text '入力して絞り込み' (Enter to filter) and a search icon. To the right of the search bar, the text '* 新規' (New) is highlighted with a red box. Other icons for '編集' (Edit), '削除' (Delete), '有効/無効' (Enable/Disable), and 'テスト' (Test) are also visible. Below the search bar is a table with two columns: 'サイト名' (Site Name) and 'ホスト名/IP アドレス' (Host Name/IP Address). The table is currently empty, with a message below it stating 'VPN サイトが見つかりませんでした。新しい VPN サイトの追加' (No VPN sites found. Add new VPN sites).

4. リモートサイトの設定を行います。
本ガイドでは、以下の内容を設定します。

項目	説明
サイト名	任意の名前を入力します。
接続タイプ	「ホスト名または IP アドレス」を選択します。
IPアドレス	リモートサイトのグローバルIPアドレスを入力します。
パスワード	事前認証鍵を入力します。入力した文字は「●」で表示されます。 ※ここで設定した事前共有鍵を、リモートサイト側にも設定してください。
確認	事前認証鍵を再入力します。入力した文字は「●」で表示されます。
暗号化ドメイン	「リモート ネットワーク トポロジを手動で定義」を選択します。 (次の手順で、「定義」の内容を登録します)

The screenshot shows the 'New VPN Site' configuration window with the following settings:

- Remote Site** tab selected.
- Site Name:** VPN_Site1
- Connection Type:** Host name or IP address (selected)
- IP Address:** [Redacted]
- Authentication:** Pre-shared secret (selected)
 - 静的 NAT で隠す:
 - ホスト名:
 - パスワード: [Redacted]
 - 確認: [Redacted]
 - 証明書:
 - DN で証明書を一致:
- Remote Site Encryption Domain:** Remote network topology manually defined

Buttons at the bottom: 適用 (Apply), キャンセル (Cancel).

5. 「新規」をクリックします。

新規 VPN サイト

リモートサイト 暗号化 詳細

IP アドレス

静的 NAT で隠す

ホスト名

認証

プリシェアードシークレット

パスワード:

確認:

証明書

DN で証明書を一致

リモートサイトの暗号化ドメイン

暗号化ドメイン: リモート ネットワーク トポロジを手動で定義

* 新規 編集 削除 選択...

オブジェクト名	IP アドレス
アイテムが見つかりませんでした。	

ネットワークを除外...

適用 キャンセル

6. ネットワークオブジェクトの設定を行い、「適用」をクリックします。

項目	説明
タイプ	「ネットワーク」を選択します。
ネットワークアドレス	リモートサイトの、LAN側のネットワークアドレスを入力します。
サブネットマスク	リモートサイトの、LAN側のサブネットマスクを入力します。
オブジェクト名	任意の名前を入力します。

新しいネットワークオブジェクト

タイプ: ネットワーク

ネットワークアドレス: 192.168.1.1

サブネットマスク: 255.255.255.0

オブジェクト名: Network_Object1

適用 キャンセル

7. 「暗号化」タブをクリックします。

The screenshot shows the 'New VPN Site' configuration window. The 'Remote Site' section has three tabs: 'Remote Site', 'Encryption', and 'Details'. The 'Encryption' tab is highlighted with a red box. The 'Remote Site' section contains radio buttons for 'IP Address' (selected), 'Host Name', and 'Certificate'. The 'Authentication' section has radio buttons for 'Pre-shared Secret' (selected) and 'Certificate', with corresponding password and DN fields. The 'Remote Site Encryption Domain' section includes a dropdown menu and a table of objects.

新規 VPN サイト

リモートサイト **暗号化** 詳細

IP アドレス
 静的 NAT で隠す
 ホスト名

認証

プリシェアードシークレット
パスワード:
確認:
 証明書
 DN で証明書を一致

リモートサイトの暗号化ドメイン

暗号化ドメイン: リモート ネットワーク トポロジを手動で定義

* 新規 編集 削除 選択...

オブジェクト名	IP アドレス
Network_Object1	/255.255.255.0

ネットワークを除外...

適用 キャンセル

8. 暗号化の設定を行います。
本ガイドでは、以下の内容を設定します。

項目	説明	
暗号化設定	「Custom」を選択します。	
IKE (フェーズ 1)	暗号化	「AES-128」を選択します。
	認証	「SHA1」を選択します。
	Diffie-Hellmanグループサポート	「Group 2 (1024 bit)」を選択します。
	再ネゴシエーション間隔	「480」を入力します。
IKE (フェーズ 2)	暗号化	「AES-128」を選択します。
	認証	「SHA1」を選択します。
	再ネゴシエーション間隔	「28800」を入力します。

The screenshot shows the 'New VPN Site' configuration window with the '暗号化' (Encryption) tab selected. The settings are as follows:

- 暗号化設定:** Custom
- IKE (フェーズ 1):**
 - 暗号化: AES-128
 - 認証: SHA1
 - Diffie-Hellmanグループサポート: Group 2 (1024 bit)
 - 再ネゴシエーション間隔: 480 分 (8 時間)
- IPSec (フェーズ 2):**
 - 暗号化: AES-128
 - 認証: SHA1
 - Diffie-Hellmanグループサポート: Group 2 (1024 bit)
 - 再ネゴシエーション間隔: 28800 秒 (480 分)

Additional options include a checkbox for 'Perfect Forward Secrecy を有効にする (高セキュリティ、多少パフォーマンスに影響あり)' and buttons for '適用' (Apply) and 'キャンセル' (Cancel).

9. 「詳細」タブをクリックします。

新規 VPN サイト

リモートサイト 暗号化 **詳細**

暗号化設定: Custom

IKE (フェーズ 1)

暗号化: AES-128

認証: SHA1

Diffie-Hellmanグループ サポート: Group 2 (1024 bit)

再ネゴシエーション間隔: 480 分 (8 時間)

IPsec (フェーズ 2)

暗号化: AES-128

認証: SHA1

Perfect Forward Secrecy を有効にする (高セキュリティ、多少パフォーマンスに影響あり)

Diffie-Hellmanグループ サポート: Group 2 (1024 bit)

再ネゴシエーション間隔: 28800 秒 (480 分)

✓ 適用 × キャンセル

10. 以下の設定を行い、「適用」をクリックします。

項目	説明
リモート ゲートウェイが Yamaha UTM アプライアンス	チェックを外します。
このサイトの NAT を無効にする	チェックを入れます。
暗号化メソッド	「IKEv1」を選択します。 ※IKEv2は動作保証外のため、選択しないでください。

新規 VPN サイト

リモートサイト 暗号化 詳細

設定

リモートゲートウェイが Yamaha UTM アプライアンス

永続的 VPN トンネルを有効にする

このサイトの NAT を無効にする
このサイトでの接続は、Hide NAT が定義されていても元の IP アドレスが使われます。

このゲートウェイでリモートサイトからインターネットへのトラフィックを許可

暗号化メソッド

暗号化メソッド: IKEv1

IKEv1 のアグレッシブ モードを有効にする

Diffie-Hellman グループ: []

このゲートウェイの識別子で VPN トンネルを開始

ゲートウェイ ID: []

タイプ: ドメイン名

追加の証明書マッチング

リモートサイトの証明書の発行元: Any Trusted CA

適用 キャンセル

11. 「スキップ」をクリックします。

VPN_SITE1 への接続テスト中

VPN サイトトンネルのテスト中...

スキップ

12. リモートVPNサイトの設定が追加されました。続けて、詳細設定をします。
「サイト間 VPN」の「詳細」をクリックします。



13. トンネルヘルスマonitoringの設定を行い、「適用」をクリックします。

項目	説明
トンネルヘルスマonitoringメソッド	「DPD(Dead Peer Detection)」を選択します。
DPD(Dead Peer Detection)レスポンスモードを使用	チェックを入れます。



14. 「デバイス」、「詳細設定」の順にクリックします。

The screenshot shows the Yamaha management console interface. On the left sidebar, the 'デバイス' (Device) menu item is highlighted with a red box. In the main content area, the '詳細設定' (Detailed Settings) menu item under the '詳細' (Details) section is also highlighted with a red box. The main content area displays a table of device settings.

YAMAHA admin | ログアウト | 検索

詳細設定: デバイスの詳細な設定を管理します。

⚠ これらの詳細設定を変更すると、アプライアンスの安定性、セキュリティ、パフォーマンスなどに影響する場合があります。

入力して絞り込み 🔍 編集 デフォルトに戻す

属性名	タイプ	値	説明
DDNS - 繰り返し	int	2	繰り返す回数
DHCP ブリッジ - MAC 割り当て	options	内部イン...	DHCP ブリッジの MAC アドレスが...
DHCP リレー - 内部 IP アドレスを発信元に使...	bool	false	アプライアンスからの DHCP リレー
IP フラグメントパラメータ - アクション	options	許可	デフォルトで IP フラグメントが許可
IP フラグメントパラメータ - タイムアウト	int	1	不完全なパケットを破棄するまでの
IP フラグメントパラメータ - パケットキャプ...	bool	false	IP フラグメントの/パケットキャプテ
IP フラグメントパラメータ - 最大フラグメント	int	200	不完全なパケットを破棄するまでの:
IP フラグメントパラメータ - 最小フラグメン...	int	0	IP フラグメントの最小サイズ
IP フラグメントパラメータ - 追跡オプション	options	ログ記録	IP フラグメントをログ記録するかど
IP 解決 - IP 解決 TTL	int	1800	ホスト名解決が使用される時間(秒)
IP 解決 - IP 解決の有効化	options	無効	IP 解決ログの有効化/無効化
IPS エンジン設定 - HTML エラー ページの設定	bool	false	エラー ページにエラー コードを表
IPS エンジン設定 - Web セキュリティのエラ...	options	事前定義...	IPS 保護機能で、攻撃阻止した際にコ
IPS エンジン設定 - エラー コードの送信	bool	false	エラー コードが他の URL にパラメ...
IPS エンジン設定 - プロトコル不明コマンドを...	bool	false	インスペクション モジュールで完全
IPS エンジン設定 - リダイレクトの URL	urlv6		攻撃が検出されると、ユーザはこの
IPS エンジン設定 - ログ URL アドレス	urlv6		エラー ページで表示するログ ファイ
IPS エンジン設定 - ログの URL	bool	false	企業のロゴを参照する URL を入力し
IPS エンジン設定 - 詳細エラー コードの送信	bool	true	エラー ページに設定文字列を表示す

15. 検索欄に「トンネル共有」と入力します。検索結果が表示されます。

The screenshot shows the same Yamaha management console interface. The search bar at the top of the settings table now contains the text 'トンネル共有' (Tunnel Sharing), which is highlighted with a red box. The table below shows the search results.

YAMAHA admin | ログアウト | 検索

詳細設定: デバイスの詳細な設定を管理します。

⚠ これらの詳細設定を変更すると、アプライアンスの安定性、セキュリティ、パフォーマンスなどに影響する場合があります。

トンネル共有 ✕ 編集 デフォルトに戻す

属性名	タイプ	値	説明
VPN サイト間のグローバル設定 - VPN	options	サブネット	トンネル数を制御しながら新し

16. テーブルの「VPN サイト間のグローバル設定 - VPN トンネル共有」をクリックして選択状態にしてから、「編集」をクリックします。

The screenshot shows the Yamaha VPN management console. The left sidebar contains navigation menus for 'ネットワーク' (Network), 'システム' (System), and '証明書' (Certificates). The main content area is titled '詳細設定: デバイスの詳細な設定を管理します。' (Detailed Settings: Manage detailed device settings). A warning message states: 'これらの詳細設定を変更すると、アプライアンスの安定性、セキュリティ、パフォーマンスなどに影響する場合があります。' (Changing these detailed settings may affect the stability, security, and performance of the appliance). Below the warning, there is a search bar for 'トンネル共有' (Tunnel Sharing) with an '編集' (Edit) button. A table lists the settings:

氏名	タイプ	値	説明
VPN サイト間のグローバル設定 - VPN トンネル共有	options	サブネット	トンネル数を制御しながら新し

17. 「VPN トンネル共有」の設定を「ゲートウェイ」に変更し、「適用」をクリックします。

The screenshot shows the 'VPN サイト間のグローバル設定' (VPN Site-to-Site Global Settings) dialog box. The 'VPN トンネル共有:' (VPN Tunnel Sharing:) dropdown menu is set to 'ゲートウェイ' (Gateway) and is highlighted with a red box. Other settings include 'タイプ:' (Type:) set to 'options', 'デフォルト値:' (Default Value:) set to 'サブネット' (Subnet), and a '説明:' (Description:) field. At the bottom, there are three buttons: 'デフォルトに戻す' (Reset to Default), '適用' (Apply) (highlighted with a red box), and 'キャンセル' (Cancel).

18. 検索欄に「ゲートウェイからの暗号化」と入力します。検索結果が表示されます。

The screenshot shows the Yamaha configuration web interface. The left sidebar contains navigation menus for 'ネットワーク' (Network), 'システム' (System), and '証明書' (Certificates). The main content area is titled '詳細設定: デバイスの詳細な設定を管理します。' (Detailed Settings: Manage device details). A search bar at the top right contains the text 'ゲートウェイからの暗号化'. Below the search bar, a table lists search results. The first result is highlighted with a red box.

属性名	タイプ	値	説明
VPN サイト間のグローバル設定 - ローカルゲートウェイからの暗号化接続...	bool	false	ローカルゲ...

19. テーブルの「VPN サイト間のグローバル設定 - ローカルゲートウェイからの暗号化接続に内部 IP アドレスを使用」をクリックして選択状態にしてから、「編集」をクリックします。

This screenshot is similar to the previous one, but the '編集' (Edit) button next to the search result is highlighted with a red box. The search result row itself is also highlighted with a red box.

属性名	タイプ	値	説明
VPN サイト間のグローバル設定 - ローカルゲートウェイからの暗号化接続...	bool	false	ローカルゲ...

20. 「ローカルゲートウェイからの暗号化接続に内部 IP アドレスを使用」にチェックを入れて、「適用」をクリックします。

VPN サイト間のグローバル設定

ローカルゲートウェイからの暗号化接続に内部 IP アドレスを使用:

タイプ: bool

デフォルト値: false

説明: ローカルゲートウェイから送られる暗号化接続に、内部インタフェースの IP アドレスを接続ソースとして使います。

デフォルトに戻す キャンセル

以上で、本製品のVPN設定は完了です。
本製品での設定内容に合わせて、リモートサイト側の機器を設定してください。

お知らせ



- リモートサイトとしてヤマハルーターを使用する場合の設定について、詳しくは以下のWeb サイトをご覧ください。
ヤマハネットワーク製品 設定例 (UTM) : https://network.yamaha.com/setting/router_firewall/security/utm_appliance

6.2. リモートアクセスVPNを構築する

リモートアクセスVPNを構築する場合の、本製品の設定手順を説明します。
本ガイドでは、リモートアクセスユーザとして「YMS-VPN8ソフトウェアライセンス版」を使用する場合について紹介します。

お知らせ



- 「YMS-VPN8ソフトウェアライセンス版」について、詳しくは以下のWeb サイトをご覧ください。
YMS-VPN8ソフトウェアライセンス版：https://network.yamaha.com/products/software_service/yms-vpn8-license/
- 「本製品のWeb GUIにログインする」の手順でログインしたことを前提に説明します。

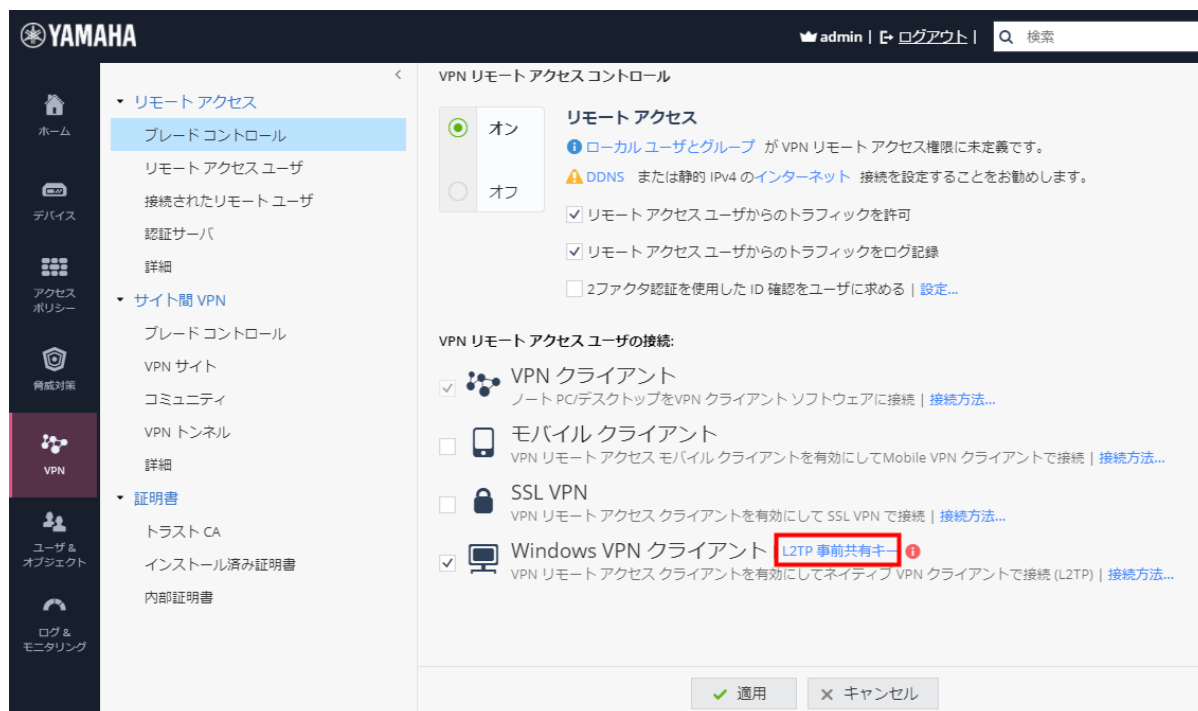
- 「VPN」、「リモート アクセス」の「ブレード コントロール」の順にクリックします。

The screenshot displays the Yamaha YMS-VPN8 Web GUI. The top navigation bar includes the Yamaha logo, the user name 'admin', a 'Logout' button, and a search bar. The left sidebar contains a navigation menu with items like 'Home', 'Devices', 'Access Policies', 'Security Policies', 'VPN', 'Users & Objects', and 'Logs & Monitoring'. The 'VPN' menu item is highlighted with a red box. The main content area is titled 'VPN Remote Access Control'. It features a 'Remote Access' toggle switch set to 'On'. Below this, there are several sections: 'Remote Access' settings with a warning about local users and DDNS, and 'VPN Remote Access User Connections' with checkboxes for 'VPN Client', 'Mobile Client', 'SSL VPN', and 'Windows VPN Client'. The 'VPN Client' and 'Mobile Client' options are checked. At the bottom right, there are 'Apply' and 'Cancel' buttons.

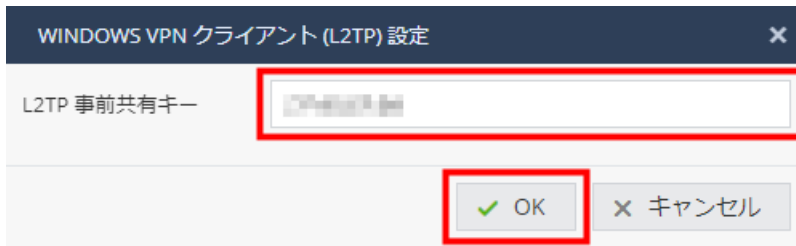
2. リモートアクセスの設定で「オン」を選択し、利用するアクセスユーザの項目にチェックを入れます。本ガイドでは、「Windows VPN クライアント」にチェックを入れます。



3. 「L2TP 事前共有キー」をクリックします。



4. L2TP 事前共有キーを入力し、「OK」をクリックします。



お知らせ

- ここで設定したL2TP 事前共有キーを、クライアント側にも設定します。

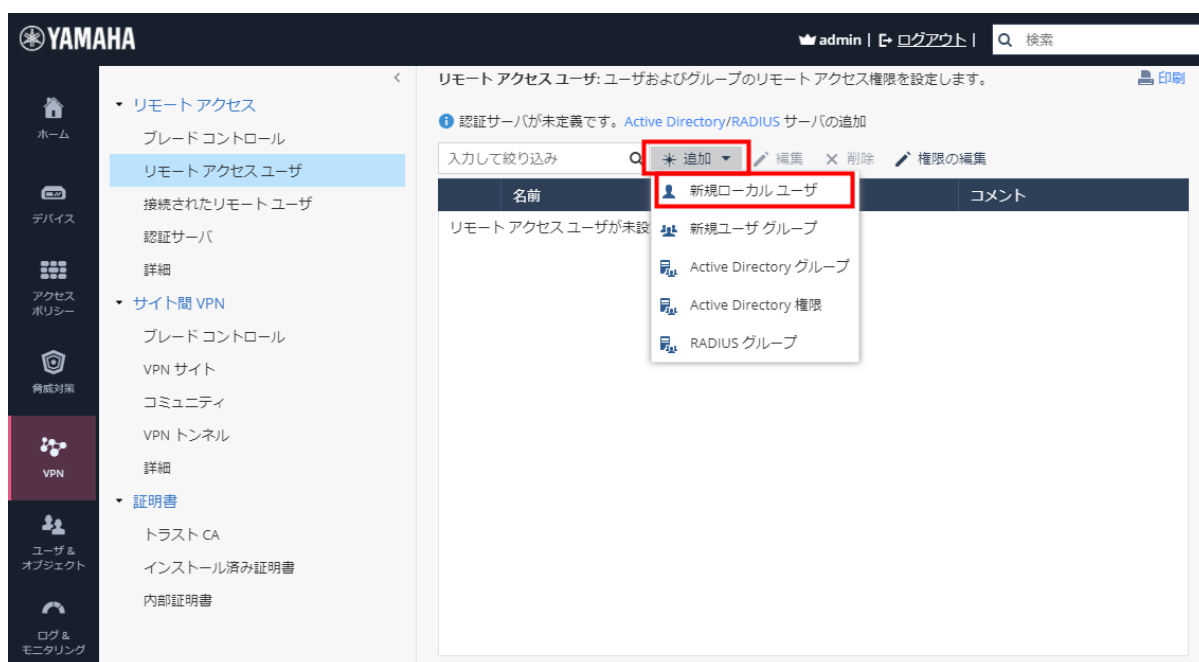
5. 「適用」をクリックします。



6. 「リモート アクセス ユーザ」をクリックします。



7. 「追加」をクリックし、「新規ローカル ユーザ」を選択します。



8. リモートアクセスユーザの設定を行い、「適用」をクリックします。

項目	説明
ユーザ名	リモートアクセスユーザの名前を設定します。
パスワード	リモートアクセスユーザのパスワードを設定します。入力した文字は「●」で表示されます。
確認	リモートアクセスユーザのパスワードを再入力します。入力した文字は「●」で表示されます。

新規ローカルユーザ

リモートアクセス SSL VPN ブックマーク

ユーザ名: remote_user1

パスワード: ●●●●●●

確認: ●●●●●●

Eメール:

電話番号:

コメント:

テンポラリユーザ

リモート アクセス権限

✓ 適用 × キャンセル

リモートアクセスユーザの設定が追加されました。

リモートアクセスユーザ: ユーザおよびグループのリモートアクセス権限を設定します。

認証サーバが未定義です。Active Directory/RADIUS サーバの追加

入力して絞り込み 🔍 * 追加 ✎ 編集 ✕ 削除 ✎ 権限の編集

名前	リモートアクセス	コメント
remote_user1	ユーザ権限	

以上で、本製品のVPN設定は完了です。
本製品での設定内容に合わせて、リモートアクセスする端末を設定してください。

重要

- リモートアクセスを利用する端末の設定手順は、「ブレード コントロール」画面で確認できます。
該当するクライアントの「接続方法…」をクリックしてください。



VPN リモートアクセスコントロール

リモートアクセス

オン オフ

1 ユーザ と 0 グループが VPN リモートアクセス権限に定義されています。
⚠️ DDNS または静的 IPv4 のインターネット 接続を設定することをお勧めします。

リモートアクセスユーザからのトラフィックを許可
 リモートアクセスユーザからのトラフィックをログ記録
 2ファクタ認証を使用した ID 確認をユーザに求める | 設定...

VPN リモートアクセスユーザの接続:

VPN クライアント
ノート PC/デスクトップをVPN クライアントソフトウェアに接続 | 接続方法...

モバイルクライアント
VPN リモートアクセス モバイルクライアントを有効にして Mobile VPN クライアントで接続 | 接続方法...

SSL VPN
VPN リモートアクセスクライアントを有効にして SSL VPN で接続 | 接続方法...

Windows VPN クライアント | L2TP 事前共有キー
VPN リモートアクセスクライアントを有効にしてネイティブ VPN クライアントで接続 (L2TP) | 接続方法...

適用 × キャンセル

- リモートアクセスユーザとして「YMS-VPN8ソフトウェアライセンス版」を用いる場合、VPN接続が8時間で切断されます。ご注意ください。

7. 運用管理

7.1. セキュリティー機能を利用する

本製品では、以下のセキュリティー機能を利用できます。

重要



- 本製品のセキュリティー機能を利用するには、ライセンスが必要です。正式ライセンスを有効にする手順については、「[ライセンスを有効化する](#)」をご覧ください。

機能名	概要
ファイアウォール	ユーザーのIPアドレス、アプリケーション、通信プロトコルなどを基にしたルールを作成し、通信を管理できます。また、ユーザーやグループ別に、ネットワークアクセスの制限や利用帯域を細かく設定できます。Active Directoryサーバーと連携して、アクセス制限を設定することも可能です。
アプリケーションコントロール	8,400を超えるアプリケーション（2021年1月時点）を150以上のカテゴリーに分類し、セキュリティー上の脅威となるアプリケーションを遮断できます。遮断対象を追加したり、個別で許可したりすることも可能です。
URLフィルタリング	2億以上のウェブサイト（2021年1月時点）をカテゴリー別に分類し、カテゴリーごとのアクセスを管理できます。ドメイン単位、ページ単位でのルール設定も可能です。また、SSL（HTTPS）通信での接続を判別対象とすることも可能です。
侵入防止（IPS）	攻撃と判定された外部からの通信を、自動で検知／遮断できます。攻撃判定ルールは日々更新されるため、最新の攻撃手法にも対応可能です。
アンチウイルス	シグネチャーや振舞い分析エンジン、レピュテーションエンジンなど、様々なマルウェア検出手法を用いてネットワークを保護できます。ワールドワイドのレベルで脅威に関する最新情報を収集し、リアルタイムに脅威情報を更新します。SSL（HTTPS）通信での通信を判別対象とすることも可能です。
アンチボット	ボットに感染した端末とC&Cサーバー（遠隔操作のための指令を送るサーバー）との通信を検出し、通信の内容からボットの種類を判別できます。情報漏えいや更なるマルウェアへの感染を防止します。
アンチスパム	スパム実績のあるメール送信元IPアドレスやメール本文、添付ファイルを元に、スパムメール・迷惑メールの判定ができます。メールアドレスやドメインを指定して、許可リスト/ブロックリストを登録することも可能です。

7.2. セキュリティーレポートを確認する

以下の手順で、設置環境のセキュリティーに関するレポートを確認できます。



お知らせ

- ・「[本製品のWeb GUIにログインする](#)」の手順でログインしたことを前提に説明します。

1. 「ホーム」、「レポート」の順にクリックします。

The screenshot shows the Yamaha UTM Web GUI interface. The top navigation bar includes the Yamaha logo, the user name 'admin', a 'Logout' button, and a search bar. The left sidebar contains a navigation menu with the following items: Home (highlighted in red), Devices, Access Policies, Threat Detection, VPN, Users & Objects, and Logs & Monitoring. The main content area is titled 'システム' (System) and is divided into three sections: 'システム情報' (System Information), 'ネットワーク' (Network), and '通知' (Notifications). The 'システム情報' section displays the device name 'Yamaha UTM アプライアンス', version 'R80.20.15 (992001670)', and system start time '2021年2月15日 月曜日 2:13:36 PM (GMT+09:00) 東京 大阪 札幌'. The 'ネットワーク' section shows 'インターネット接続' (Internet Connection) with details like connection type 'ブリッジ' and interface 'WAN'. The '通知' section lists recent events, including '新しいデバイスが検出さ...' (New device detected...) and 'ゲートウェイに接続' (Gateway connected...).

レポートが表示されます。

お知らせ



- 画面上部の期間（「毎月」「毎週」「毎日」「毎時」）をクリックすると、選択した期間に対するレポートが生成されます。
- 画面右上の「印刷」をクリックすると、生成したレポートを印刷できます。

The screenshot displays the Yamaha UTM dashboard interface. At the top, there is a navigation bar with the Yamaha logo, user information (admin), and a search bar. Below this is a sidebar menu with categories like '概要' (Overview), 'モニタリング' (Monitoring), and 'トラブルシューティング' (Troubleshooting). The main content area shows a report for the current hour, with a dropdown menu for selecting the time period (currently set to '毎時'). The report title is 'Yamaha UTM アプライアンス レポート'. It features several key metrics: 'アンチポット' (283 events), 'アンチウイルス' (364 events), and 'IPS' (3 incidents). A central gauge shows total traffic of 170GB, with 76.6GB from top applications. Below this, there are sections for '帯域消費の上位ランク' (Top bandwidth consumers) and 'アプリケーション別の帯域消費' (Bandwidth by application). The top bandwidth consumers are High Bandwidth (44.9GB), youtube.com (30.3GB), and John A (24.9GB). The top applications are YouTube (14%), Gmail (13%), SSL Protocol (10%), and others (54.8%). The report also lists '7 台の感染したデバイス' (7 infected devices) and '15 高リスク アプリケーション' (15 high-risk applications). At the bottom, it shows the gateway name, version (R80.20.15), and MAC address.

7.3. ヤマハルーターのダッシュボードで管理する

本製品をヤマハルーターの配下に設置し、ブリッジモードで運用する場合は、ヤマハルーターの「ダッシュボード機能」による機器管理が可能です。

重要



- ブリッジモードについては、「初期設定」の「■利用形態」をご覧ください。
- ヤマハルーターで本製品を管理する場合は、管理者アクセスの設定が必要です。詳しくは、「管理者アクセスの設定を変更する」をご覧ください。
- ヤマハルーターの設定方法については、ご利用の機種種のWeb GUI操作マニュアルをご覧ください。以下のWeb サイトで配布されています。
 - マニュアル配布ページ：<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/manual.html>

7.4. ヤマハルーターのLANマップで管理する

本製品をヤマハルーターの配下に設置し、ブリッジモードで運用する場合は、ヤマハルーターの「LANマップ機能」による機器管理が可能です。

重要



- ブリッジモードについては、「初期設定」の「■利用形態」をご覧ください。
- ヤマハルーターで本製品を管理する場合は、管理者アクセスの設定が必要です。詳しくは、「管理者アクセスの設定を変更する」をご覧ください。
- ヤマハルーターの設定方法については、ご利用の機種種のWeb GUI操作マニュアルをご覧ください。以下のWeb サイトで配布されています。
 - マニュアル配布ページ：<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/manual.html>

7.5. 管理者アクセスの設定を変更する

本製品への管理者アクセスを許可するネットワークを、Web GUIで設定できます。ヤマハルーターの「ダッシュボード機能」や「LANマップ機能」で本製品を管理する場合や、インターネットから本製品にアクセスする場合など、必要に応じて管理者アクセスの設定を変更してください。

重要



- ヤマハルーターの「ダッシュボード機能」や「LANマップ機能」を使用した管理は、本製品をブリッジモードで運用する場合に限り、可能です。
 - ブリッジモードについては、「初期設定」の「**■利用形態**」をご覧ください。
 - ヤマハルーターの「ダッシュボード機能」や「LANマップ機能」について、詳しくは以下のWeb サイトをご覧ください。
 - ダッシュボード機能：http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/dashboard_ver2/
 - LANマップ機能：<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/lanmap/>

管理者アクセスの設定は、以下の手順で変更できます。

本ガイドでは、ヤマハルーターの配下に本製品（ブリッジモード）を設置して、「LANマップ機能」で管理する場合の設定手順を紹介します。

お知らせ



- 「**本製品のWeb GUIにログインする**」の手順でログインしたことを前提に説明します。

1. 「デバイス」、「管理者アクセス」の順にクリックします。

The screenshot displays the Yamaha Web GUI interface. On the left sidebar, the 'Devices' menu item is highlighted with a red box. Below it, the 'Administrator Access' sub-menu item is also highlighted with a red box. The main content area shows the configuration for 'Administrator Access: Administrator's Web (HTTPS) and SSH Access'. It includes a section for 'Administrator Access' with checkboxes for LAN, VPN, and WAN. Below this, there are radio buttons for 'Any IP address', 'Specific IP address only', and 'Internet-specified IP address and any IP address from other than Internet'. A warning message states that administrator access from the Internet will be blocked until specific IP addresses are set. There is a table for 'Access Ports' with 'Web Port (HTTPS)' set to 4434 and 'SSH Port' set to 22. At the bottom, there are 'Apply' and 'Cancel' buttons.

2. 以下の設定を入力します。

項目	説明
「管理者アクセスを許可する発信元を選択してください。」	「WAN」にチェックを入れます。
「上記で選択した発信元からのアクセスを下記のIPアドレスから許可」	「インターネットからの指定IPアドレスとインターネット以外からの任意のIPアドレス」を選択します。 (以降の手順で、アクセスを許可するIPアドレスを指定します)



重要

- 。インターネットからの管理者アクセスを許可する場合は、セキュリティの観点から、アクセスを許可するIPアドレスを指定することをおすすめします。

The screenshot shows the 'Administrator Access' configuration page in the Yamaha network management interface. The page title is '管理者アクセス: 管理者の Web (HTTPS) および SSH アクセス'. The main instruction is '管理者アクセスを許可する発信元を選択してください。'. There are three checkboxes for selecting the source: LAN (checked), VPN (unchecked), and WAN (checked). Below this, there are three radio buttons for selecting the IP address range: '任意の IP アドレス' (unchecked), '特定の IP アドレスのみ' (unchecked), and 'インターネットからの指定 IP アドレスとインターネット以外からの任意の IP アドレス' (checked). A warning message states: '特定の IP アドレスを設定するまで、インターネットからの管理者アクセスはブロックされます。'. There are buttons for '新規' (New) and '削除' (Delete), and a search box containing 'アイテムが見つかりません'. At the bottom, there are input fields for 'Web ポート (HTTPS): 4434' and 'SSH ポート: 22', and buttons for '適用' (Apply) and 'キャンセル' (Cancel).

3. 「新規」をクリックします。

The screenshot shows the Yamaha web management interface. The top navigation bar includes the Yamaha logo, the user name 'admin', a 'Logout' button, and a search bar. The left sidebar contains a menu with categories: ネットワーク (Network), システム (System), and 証明書 (Certificates). Under 'システム', '管理者アクセス' (Administrator Access) is selected. The main content area is titled '管理者アクセス: 管理者の Web (HTTPS) および SSH アクセス'. It prompts the user to select the source of administrator access, with options for LAN, VPN, and WAN. Below this, there are radio buttons for '任意の IP アドレス', '特定の IP アドレスのみ', and 'インターネットからの指定 IP アドレスとインターネット以外からの任意の IP アドレス'. A warning message states that administrator access from the internet will be blocked until specific IP addresses are set. A list of items is shown with a '新規' (New) button highlighted in a red box and a '削除' (Delete) button. Below the list is the 'アクセスポート' (Access Port) section with input fields for 'Web ポート (HTTPS): 4434' and 'SSH ポート: 22'. At the bottom, there are '適用' (Apply) and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

4. 管理者アクセスを許可するネットワークを設定し、「適用」をクリックします。
本ガイドでは、以下の設定を入力します。

項目	説明
タイプ	「IPv4 ネットワーク」を選択します。 ※設定を変更すると、下の設定項目の表示が変わります。
ネットワークIP	本製品で使用するIPアドレスのネットワークアドレスを入力します。
サブネットマスク	設置環境のサブネットマスクを入力します。

IP アドレス設定

タイプ: IPv4 ネットワーク

ネットワークIP: [Redacted]

サブネットマスク: 255.255.255.0

適用 キャンセル

重要



- 。ルーターモードで運用している本製品に対して、インターネットからの管理者アクセスを許可する場合は、以下の設定を入力します。
 - タイプ：「IPv4 アドレス」を選択します。
 - ネットワークIP：インターネットからアクセスする機器のグローバルIPアドレスを入力します。

5. 「適用」をクリックします。
以上で、管理者アクセスの設定は完了です。

The screenshot shows the Yamaha network management interface. The top navigation bar includes the Yamaha logo, the user 'admin', a 'Logout' button, and a search bar. The left sidebar contains a menu with categories: 'ホーム' (Home), 'デバイス' (Devices), 'アクセスポリシー' (Access Policies), '脅威対策' (Threat Protection), 'VPN', 'ユーザ & オブジェクト' (Users & Objects), and 'ログ & モニタリング' (Logs & Monitoring). Under 'デバイス', '管理者アクセス' (Administrator Access) is selected. The main content area is titled '管理者アクセス: 管理者の Web (HTTPS) および SSH アクセス' (Administrator Access: Administrator's Web (HTTPS) and SSH Access). It prompts the user to select the source of administrator access, with 'LAN', 'VPN', and 'WAN' checkboxes. 'WAN' is checked. Below, it asks to select IP addresses for access, with radio buttons for '任意の IP アドレス' (Any IP address), '特定の IP アドレスのみ' (Only specific IP addresses), and 'インターネットからの指定 IP アドレスとインターネット以外からの任意の IP アドレス' (Specified IP addresses from the Internet and any IP addresses from outside the Internet). The third option is selected. A table below shows a list of IP addresses with columns for '新規' (New) and '削除' (Delete). One entry is visible: '255.255.255.0'. The 'アクセスポート' (Access Port) section has input fields for 'Web ポート (HTTPS):' (4434) and 'SSH ポート:' (22). At the bottom right, there are two buttons: '適用' (Apply) with a green checkmark, which is highlighted with a red box, and 'キャンセル' (Cancel) with an 'x' icon.

7.6. デバイスアクセスの設定を変更する

専用サポート窓口「UTXサポートサービス」をご利用になる場合など、インターネットから本製品へのアクセスを許可する場合は、以下の手順でデバイスアクセスの設定を変更してください。

お知らせ



- 本製品をブリッジモードで運用している場合にデバイスアクセスの設定を行うと、上位ルーターのポート開放をしなくても、インターネットから本製品にアクセスできるようになります。

お知らせ



- 「[本製品のWeb GUIにログインする](#)」の手順でログインしたことを前提に説明します。

1. 「デバイス」、「DDNS & デバイス アクセス」の順にクリックします。



2. 「デバイスアクセス」の「登録」をクリックします。



3. ホスト名を入力して、「適用」をクリックします。



重要

- 。専用サポート窓口「UTXサポートサービス」をご利用になる場合は、入力するホスト名について、サポート窓口にお問い合わせください。



4. 「インターネットから到達できないときにアプライアンスへの接続を許可する」にチェックを入れて、「適用」をクリックします。

The screenshot shows the Yamaha network management interface. The left sidebar contains navigation menus for 'ネットワーク' (Network), 'システム' (System), and '証明書' (Certificates). The main content area is titled 'DDNS & デバイス アクセス: デバイスの永続ドメイン名を設定します。' (DDNS & Device Access: Set the device's persistent domain name). Under the 'DDNS' section, there is a checkbox for 'インターネットから名前でもアプライアンスに接続 (DDNS):' which is currently unchecked. Below this are input fields for 'プロバイダ:' (set to DynDns), 'ユーザ名:', 'パスワード:', and 'ホスト名:'. A note indicates that the host name must be routable (defined in the DDNS account). The 'デバイス アクセス' (Device Access) section has a checkbox 'インターネットから到達できないときにアプライアンスへの接続を許可する' which is checked and highlighted with a red box. Below this is a note: 'デバイス アクセスはアプライアンスが NAT やファイアウォールで隠れている場合に役立ちます。' (Device Access is useful when the appliance is hidden behind NAT or a firewall). There is also a '接続' (Connection) section with fields for 'ホスト名 (DNS プレフィックス):', '検証トークン:', 'Web:', and 'CLI:'. At the bottom, there is a '設定の編集...' (Edit settings...) link and a note: 'このサービスを有効にするには、インターネットからの管理者アクセスを許可して、IP アドレスを指定します。' (To enable this service, allow administrator access from the Internet and specify an IP address). At the bottom right, there are two buttons: '適用' (Apply) and 'キャンセル' (Cancel), with the '適用' button highlighted by a red box.

以上で、デバイスアクセスの設定は完了です。

続けて管理者アクセスの設定を行い、インターネットからアクセスする機器の管理者アクセスを許可してください。

操作手順については、「[管理者アクセスの設定を変更する](#)」をご覧ください。

7.7. ライセンスの有効性を確認する

以下の手順で、ライセンスの有効性を確認できます。



お知らせ

- 「[本製品のWeb GUIにログインする](#)」の手順でログインしたことを前提に説明します。

- 「ホーム」、「ライセンス」の順にクリックします。

The screenshot displays the Yamaha UTM Web GUI interface. The top navigation bar includes the Yamaha logo, the user name 'admin', a 'Logout' button, and a search field. The left sidebar contains a menu with categories: '概要' (Overview), 'デバイス' (Devices), 'アクセスポリシー' (Access Policies), '脅威対策' (Threat Protection), 'VPN', 'ユーザ & オブジェクト' (Users & Objects), and 'ログ & モニタリング' (Logs & Monitoring). Under the '概要' category, the 'システム' (System) menu item is selected and highlighted with a red box. The main content area is titled 'システム' and contains three sections: 'システム情報' (System Information), 'ネットワーク' (Network), and '通知' (Notifications). The 'システム情報' section shows the device name 'Yamaha UTM アプライアンス', version 'R80.20.15 (992001670)', and system start time '2021年1月8日 金曜日 2:55:36 PM (GMT+09:00) 東京 大阪 札幌'. The 'ネットワーク' section shows 'インターネット接続' (Internet Connection) with details like connection type 'ブリッジ' and interface 'WAN'. The '通知' section shows a list of events, including '新しいデバイスが検出さ...' (New device detected...) and 'ゲートウェイに接続' (Gateway connected).

「ライセンス」画面が表示されます。
一覧テーブルで、各機能のライセンス有効期限を確認できます。

お知らせ



- 。「有効期限」列に「No License」と表示されている場合は、ライセンスの有効期限が切れています。ライセンスを購入のうえ、「[ライセンスを有効化する](#)」の手順を実施してください。

YAMAHA admin | ログアウト | 検索

ライセンス: ライセンスの表示、管理、有効化を行います。

Software Blade	有効期限	サービス
Firewall	Never	CPSB-FW
Application Control	Jun 30, 2021	CPSB-APCL-S-1Y
URL Filtering	Jun 30, 2021	CPSB-URLF-S-1Y
Identity Awareness	Never	CPSB-IA
Advanced Networking	Never	CPSB-ADNC-SMB
IPS	Jun 30, 2021	CPSB-IPS-S-1Y
Anti-Virus	Jun 30, 2021	CPSB-AV-S-1Y
Anti-Bot	Jun 30, 2021	CPSB-ABOT-S-1Y
Anti-Spam	Jun 30, 2021	CPSB-ASPM-S-1Y
IPSec VPN	Never	CPSB-VPN

取得したライセンスの情報です。
アプライアンスは登録済みでアクティブです。
MAC アドレス:
登録キー:
[再有効化](#) | [オフライン](#) | [プロキシの設定](#)

7.8. ファームウェアをアップグレードする

本製品の機能を管理するプログラム（ファームウェア）をアップグレードすると、最新の機能を利用できるようになります。

本ガイドでは、Webサイトからダウンロードしたファームウェアのファイル（.img）を用いて、手動でアップグレードを行う手順を紹介します。

重要



- 本製品のファームウェアは、「ファームウェア配布ページ」（Webサイトに掲載）からダウンロードできます。
ファームウェア配布ページ：<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/firmware/index.php>

お知らせ



- ファームウェアのファイルは、UTX200とUTX100とで共通です。
- ファームウェアのファイル名は、「fw1_XXXXX.img」という形式になります。「XXXXX」の部分には、バージョン番号を示す英数字が入ります。
- 「[本製品のWeb GUIにログインする](#)」の手順でログインしたことを前提に説明します。

1. 「デバイス」、「システム操作」の順にクリックします。

The screenshot shows the Yamaha RT Pro Web GUI interface. The left sidebar contains a navigation menu with the following items: ホーム (Home), デバイス (Devices), アクセスポリシー (Access Policy), 脅威対策 (Threat Protection), VPN, ユーザ & オブジェクト (Users & Objects), ログ & モニタリング (Logs & Monitoring), ネットワーク (Network), システム (System), 管理者 (Admin), 証明書 (Certificates), and 詳細 (Details). The 'デバイス' (Devices) and 'システム操作' (System Operation) items are highlighted with red boxes. The main content area displays the 'システム操作' (System Operation) page, which includes sections for 'アプライアンス' (Appliance), 'ファームウェアアップグレード' (Firmware Upgrade), and 'システム設定のバックアップと復元' (System Settings Backup and Restore). The 'ファームウェアアップグレード' section shows the current firmware version (R80.20.15) and provides options for manual or automatic upgrades.

2. 「手動アップグレード」をクリックします。

The screenshot shows the Yamaha UTM management interface. The left sidebar contains navigation menus for 'ネットワーク' (Network), 'システム' (System), and '証明書' (Certificates). The 'システム' menu is expanded, and 'システム操作' (System Operation) is selected. The main content area displays system information and upgrade options. Under the 'ファームウェアアップグレード' (Firmware Upgrade) section, the '手動アップグレード' (Manual Upgrade) button is highlighted with a red rectangle. Other buttons include '再起動' (Restart), 'デフォルト設定' (Default Settings), and '工場出荷時のデフォルト' (Factory Default). A notification indicates that a scheduled firmware upgrade is pending confirmation.

3. 「次へ」をクリックします。

The screenshot shows a 'ソフトウェアアップグレードウィザード' (Software Upgrade Wizard) dialog box. The title bar reads 'ソフトウェアアップグレードウィザード'. The main text area contains the following information: 'Yamaha UTM アプライアンス アップグレードウィザードへようこそ' (Welcome to the Yamaha UTM Appliance Upgrade Wizard), 'Yamaha UTM アプライアンス アップグレードウィザードでは、アプライアンスを最新ソフトウェアにアップグレードします。' (In the Yamaha UTM Appliance Upgrade Wizard, the appliance is upgraded to the latest software.), and '最新ソフトウェアについてはサポートセンターにお問い合わせください' (For the latest software, please contact the support center). At the bottom of the dialog, there are three buttons: 'キャンセル' (Cancel), '< 戻る' (Back), and '次へ>' (Next). The '次へ>' button is highlighted with a red rectangle.

4. 「参照…」をクリックし、ファームウェアのファイルを選択します。

ソフトウェアアップグレードウィザード

ソフトウェアのアップロード

参照をクリックして、アップロードするソフトウェア ファイルを探します。
ソフトウェア ファイルの名前は「.img」という拡張子が付きます(例:
fw1_vx_dep_R80_992000668_20.img)。

ソフトウェアファイル: イメージファイルの選択 **参照...**

アップロード

キャンセル <戻る 次へ>

5. 「アップロード」をクリックします。
(アップロードの処理が終わるまで、1～2分かかります)

ソフトウェアアップグレードウィザード

ソフトウェアのアップロード

参照をクリックして、アップロードするソフトウェア ファイルを探します。
ソフトウェア ファイルの名前は「.img」という拡張子が付きます(例:
fw1_vx_dep_R80_992000668_20.img)。

ソフトウェアファイル: fw1_vx_dep_R80_992000668_20.img 参照...

アップロード

キャンセル <戻る 次へ>

6. 「次へ」をクリックします。

ソフトウェアアップグレードウィザード

ソフトウェアのアップロード

参照をクリックして、アップロードするソフトウェア ファイルを探します。
ソフトウェア ファイルの名前は「.img」という拡張子が付きます(例:
fw1_vx_dep_R80_992000668_20.img)。

ソフトウェアフ
ァイル:

アップロードの進捗: ✔ アップロードが完了しました

7. 「次へ」をクリックします。

ソフトウェアアップグレードウィザード

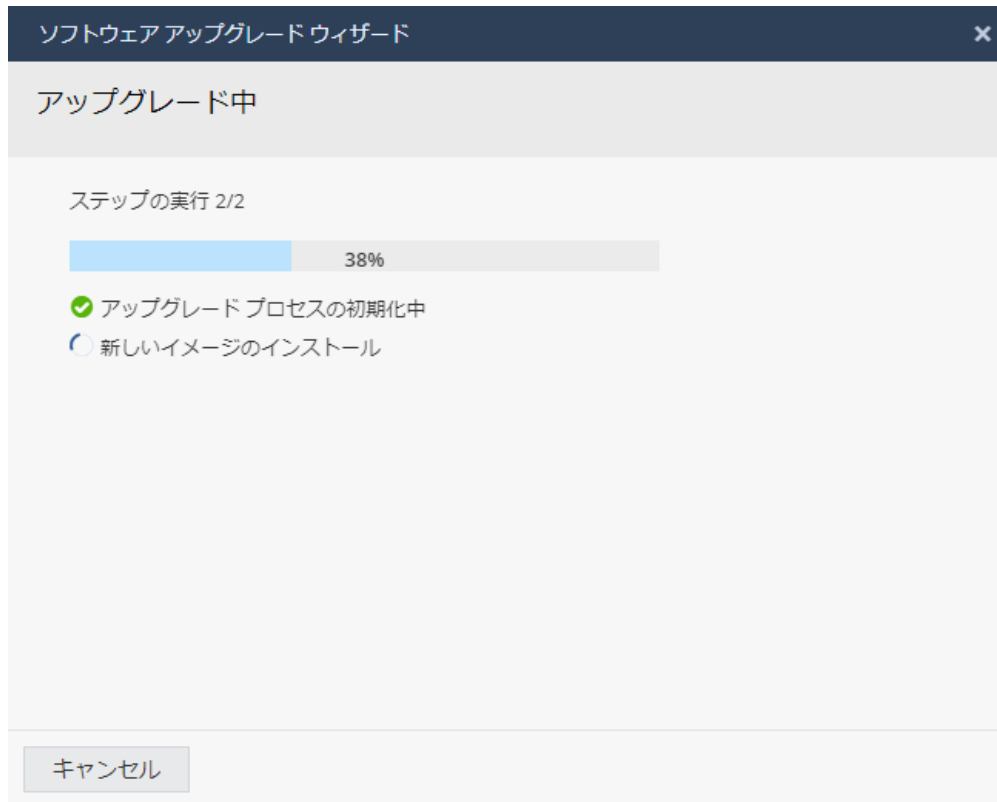
アップグレード設定

バージョン情報

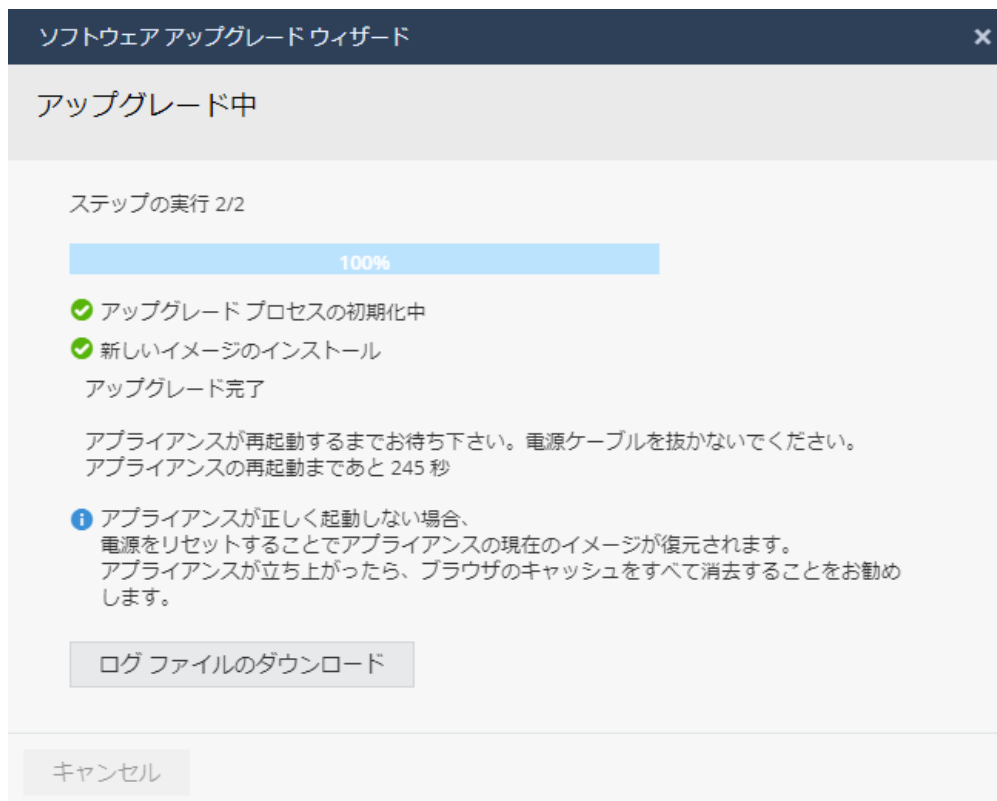
現在のソフトウェアバージョン: R80.20.15 (992001670) [11 12 2020]
アプライアンスのソフトウェアバージョンを R80.20.15 (992001680) にアップグレードします。

[次へ]をクリックしてアップグレードを開始してください。処理には数分かかる場合があります。

アップグレードの処理が始まります。



アップグレードが完了すると、続けて再起動が行われます。
(再起動が完了するまでに、数分かかります。再起動が完了すると、自動でログイン画面が表示されます)

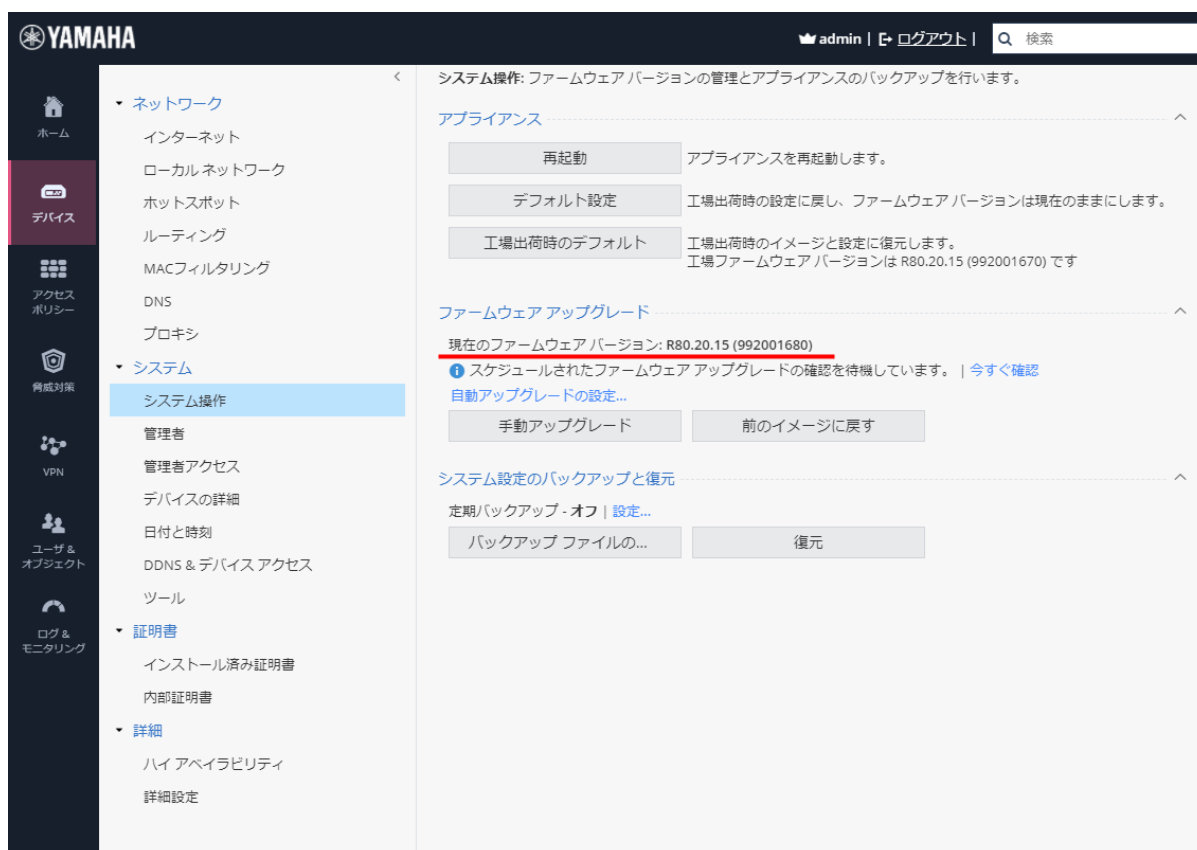


8. ユーザ名とパスワードを入力し、「ログイン」をクリックします。



以上で、ファームウェアのアップグレード手順は完了です。

「デバイス」の「システム操作」画面で、現在のファームウェアのバージョンを確認できます。



7.9. 本製品の設定を工場出荷時の状態に戻す

本製品の設定を工場出荷時の状態に戻す（初期化する）方法は、以下の3つです。

操作（各項目をクリックすると、操作手順を確認できます）	操作後の状態
Web GUIの「 デフォルト設定 」ボタンをクリックする	本製品の設定だけが、工場出荷時の状態に戻ります。 (ファームウェアのバージョンとライセンスの使用状態は変わりません)
Web GUIの「 工場出荷時のデフォルト 」ボタンをクリックする	本製品の設定、ファームウェアのバージョン、ライセンスの使用状態が、工場出荷時の状態に戻ります。
本体の「 FACTORY DEFAULT 」ボタンを長押しする	本製品の設定、ファームウェアのバージョン、ライセンスの使用状態が、工場出荷時の状態に戻ります。

7.9.1. Web GUIの「デフォルト設定」ボタンで工場出荷時の状態に戻す

Web GUIの「デフォルト設定」ボタンで、本製品の設定だけを工場出荷時の状態に戻すことができます。

重要



- ・ トライアルライセンスを未使用の状態に戻す場合は、次のいずれかの手順を行ってください。
(Web GUIの「[デフォルト設定](#)」ボタンを操作しても、ライセンスの使用状態は変わりません)
 - [Web GUIの「工場出荷時のデフォルト」ボタンをクリックする](#)
 - [本体の「FACTORY DEFAULT」ボタンを長押しする](#)

お知らせ



- ・ 「[本製品のWeb GUIにログインする](#)」の手順でログインしたことを前提に説明します。

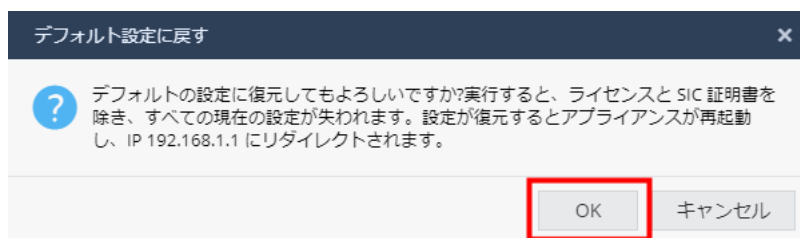
1. 「デバイス」、「システム操作」の順にクリックします。

The screenshot shows the Yamaha management console interface. On the left, a vertical navigation menu is visible with the following categories: ネットワーク (Network), システム (System), 証明書 (Certificates), and 詳細 (Details). Under the 'システム' category, 'システム操作' (System Operation) is highlighted with a red box. The main content area displays the 'システム操作' page, which includes sections for 'アプライアンス' (Appliance) and 'ファームウェア アップグレード' (Firmware Upgrade). The 'アプライアンス' section contains buttons for '再起動' (Restart), 'デフォルト設定' (Default Settings), and '工場出荷時のデフォルト' (Factory Default). The 'デフォルト設定' button is highlighted with a red box. The 'ファームウェア アップグレード' section shows the current firmware version as R80.20.15 (992001680) and includes a green checkmark indicating it is the latest, along with buttons for '自動アップグレードの設定...' (Automatic Upgrade Settings), '手動アップグレード' (Manual Upgrade), and '前のイメージに戻す' (Restore Previous Image).

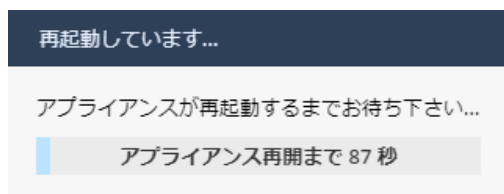
2. 「デフォルト設定」をクリックします。

This screenshot is identical to the one above, showing the Yamaha management console. The 'システム操作' (System Operation) menu item is highlighted in the left sidebar. In the main content area, under the 'アプライアンス' (Appliance) section, the 'デフォルト設定' (Default Settings) button is now highlighted with a red box, indicating the next step in the process.

3. 「OK」をクリックします。



本製品の設定が工場出荷時の状態に戻り、再起動が始まります。



再起動が完了すると、POWERインジケータが青色の点滅から点灯に変わります。

7.9.2. Web GUIの「工場出荷時のデフォルト」ボタンで工場出荷時の状態に戻す

Web GUIの「工場出荷時のデフォルト」ボタンで、本製品のファームウェアと設定を工場出荷時の状態に戻すことができます。



お知らせ

- 「本製品のWeb GUIにログインする」の手順でログインしたことを前提に説明します。

- 「デバイス」、「システム操作」の順にクリックします。

The screenshot shows the Yamaha Web GUI interface. The left sidebar contains a navigation menu with the following items: ホーム (Home), デバイス (Devices), アクセスポリシー (Access Policy), 脅威対策 (Threat Protection), VPN, ユーザ & オブジェクト (Users & Objects), ログ & モニタリング (Logs & Monitoring). The 'デバイス' (Devices) item is highlighted with a red box. Under 'デバイス', the 'システム' (System) category is expanded, and 'システム操作' (System Operation) is highlighted with a red box. The main content area displays the 'System Operation' page, which includes sections for 'アプライアンス' (Appliance), 'ファームウェアアップグレード' (Firmware Upgrade), and 'システム設定のバックアップと復元' (System Settings Backup and Restore). The 'アプライアンス' section has buttons for '再起動' (Restart), 'デフォルト設定' (Default Settings), and '工場出荷時のデフォルト' (Factory Default). The 'ファームウェアアップグレード' section shows the current firmware version (R80.20.15) and a status message indicating it is the latest. The 'システム設定のバックアップと復元' section has buttons for 'バックアップ ファイルの...' (Backup File...) and '復元' (Restore).

2. 「工場出荷時のデフォルト」をクリックします。

The screenshot shows the Yamaha network management interface. The left sidebar contains navigation menus for 'ネットワーク' (Network), 'システム' (System), and '証明書' (Certificates). The main content area is titled 'システム操作: ファームウェアバージョンの管理とアプライアンスのバックアップを行います。' (System Operation: Manage firmware versions and back up appliances). Under the 'アプライアンス' (Appliance) section, there are three buttons: '再起動' (Restart), 'デフォルト設定' (Default Settings), and '工場出荷時のデフォルト' (Factory Default), which is highlighted with a red box. The '工場出荷時のデフォルト' button has a tooltip that reads: '工場出荷時のイメージと設定に復元します。工場ファームウェアバージョンは R80.20.15 (992001670) です' (Restore to factory image and settings. Factory firmware version is R80.20.15 (992001670)).

3. 「OK」をクリックします。

The screenshot shows a confirmation dialog box titled '工場出荷時のイメージに戻す' (Restore to factory image). The message inside reads: '工場出荷時のデフォルト設定に復元してもよろしいですか? 実行すると設定が工場出荷時の状態に戻り、現在の設定は失われます。復元後にアプライアンスが再起動し、IP 192.168.1.1 にリダイレクトされます。' (Are you sure you want to restore to factory default settings? Executing will restore settings to factory state, and current settings will be lost. After restoration, the appliance will restart and redirect to IP 192.168.1.1). At the bottom, there are two buttons: 'OK' and 'キャンセル' (Cancel), with 'OK' highlighted by a red box.

本製品のファームウェアと設定が工場出荷時の状態に戻り、再起動が始まります。

The screenshot shows a progress bar indicating the device is restarting. The text reads: '再起動しています...' (Restarting...). Below it, it says 'アプライアンスが再起動するまでお待ち下さい...' (Please wait until the appliance restarts...). A progress bar shows the time remaining: 'アプライアンス再開まで 87 秒' (87 seconds until appliance restarts).

再起動が完了すると、POWERインジケータが青色の点滅から点灯に変わります。

重要



- 必要に応じて、ファームウェアをアップグレードしてください。ファームウェアをアップグレードする手順については、「[ファームウェアをアップグレードする](#)」をご覧ください。

7.9.3. 本体の「FACTORY DEFAULT」ボタンで工場出荷時の状態に戻す

本体の「FACTORY DEFAULT」ボタンで、本製品のファームウェアと設定を工場出荷時の状態に戻すことができます。

1. 本製品の電源が入った状態で、本体の背面にある「FACTORY DEFAULT」ボタンを押します。
先の細いピンのようなもので、3秒以上押し続けてください。
2. 本体の前面にあるPOWERインジケータが赤色に点灯したら、ボタンを離します。
本製品のファームウェアと設定が工場出荷時の状態に戻り、再起動が始まります。

再起動が完了すると、POWERインジケータが青色の点滅から点灯に変わります。

重要



- 必要に応じて、ファームウェアをアップグレードしてください。ファームウェアをアップグレードする手順については、「[ファームウェアをアップグレードする](#)」をご覧ください。

Manual Development Group
© 2021 Yamaha Corporation
2021年6月 発行
YJ-B0